

法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-03-14

和仏法律学校講義録

中村, 進午 / 金井, 延 / 秋山, 雅之介 / 塚田, 達二郎 / 若
槻, 禮次郎 / 中山, 成太郎

(出版者 / Publisher)

和仏法律學校

(巻 / Volume)

1-18

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

46

(発行年 / Year)

1902-07-20



(明治三十四年十一月四日第三種郵便物認可 每月二回
明治三十五年七月二十日發行)

三十五年度 第一學年

和佛法律學校講義錄

號八拾第

和佛法律學校發行

第一學年第十八號目次

民法總則 (自第一章至第三章(至二二五))

法學士 塚田達二郎

民法總則 (自第四章至第六章(至二三五))

法學士 若槻禮次郎

民法物權 (自第一章至第六章(完)(至二二五))

法學士 中山成太郎

國際公法 (平時)(自二〇七)至二二七)

法學博士 中村進午

國際公法 (局外)(元)(至五七)

法學士 秋山雅之介

經濟學總論 (自八一)六頁

法學博士 金井延

雜報 ○卒業證書授與式○擔任講師ノ變更○自首ノ效力ノ及フ範圍○第二年級學年試驗問題集

端

ル人ニ屬スヘキモノトセリ第七二條法律ニハ定款又ハ寄附行爲ヲ以テ指定シタル人トアルヲ以テ定款又ハ寄附行爲ニ於テ直接ニ歸屬権利者ヲ定メタル場合ノミニ限ルモノト解説スル者アルヘシト雖モ同條第二項ニ理事カ法人ノ遺產處分ヲ爲シ得ヘキコトヲ規定スルニ當リヲ定款又ハ寄附行爲ヲ以テ歸屬権利者ヲ指定スル方法ヲ定メタル場合ヲ除外シタル趣旨ニ依リテ解釋セハ定款又ハ寄附行爲ヲ以テ歸屬権利者ヲ指定セサルモ之ヲ指定スル方法ヲ定メ其方法ニ基キヲ定マリタル人々亦指定シタル人ナリト解説セサルヘカラス
若シ定款又ハ寄附行爲ヲ以テ歸屬権利者ヲ定メス又ハ之ヲ定ムル方法ヲ規定セサルトキハ法人ノ遺產ハ何人ニ歸屬スヘキカ此場合ニ於テハ左ノ三主義アリ立誓ニ致モ又ハ遺嘱ヘテチニオミテ致モ又ハ遺言書ハ其遺言書ノ期日迄未定第一國庫ニ歸屬セシムルコト此主義ハ佛國法ノ採ル所ニシテ解散シタル法人ノ遺產ハ相續人ナキ遺留財產ト同シク無生物ナルヲ以テ之ヲ各人ノ先古ニ任セシヨリモ國庫ニ收入セハ各人直チニ先占セントシテ相争クノ弊ヲ防ケノミナラス資本ノ分散ヲ避ケシヲ必要ノ費途ニ充フルヲ得ヘシトノ理由ニ基

クセナリ資本ノ依頼又無ニシテ必要ニ營業ニ致マリトニイニ黒山ニ基
 第二ノ法人設立者又ハ其相親人ニ歸屬セシムルコトニ此主義ハ公平ナルカ如
 シト雖モ決シテ然ラス何止オレハ營利ヲ目的トセナム法人ノ財産ヲ素ト公益
 ニ關スル事項ヲ目的トシ其目的ヲ達スルカ爲ミニ醸集シタルモノナルヲ以テ
 設立者ニ於テ之ヲ取得スヘキコトヲ定メサル以上ハ出費者ハ法人ノ遺產ヲ取
 得セントスル利益心ヲ有スルモノト認ムルコトヲ得ス即チ法人ノ財產ヲ取得
 セントスル意思ナキ者ニ對シ法律ヲ以テ之ヲ設立者ニ還付スヘキ必要ナキノ
 ミナラス他人ノ權利ヲ侵害セシムラ公益ヲ増進スルカ爲ミニ使用スルコトヲ
 得ヘキ財產ヲ一私人ニ歸屬セシムル理由ナケレハナリ故ニ此主義ヲ採用セル
 立法例ハ極メテ稀ナリトス例ハ普通西ノ水利組合體ノ解散シタルトキハ其
 遺產ハ現在ノ組合員ノ有ニ歸ストセルカ如シヨリ又ハ各團體ノ財產又ハ被損失
 第三ノ法人ノ目的ニ類似スル事業ノ爲メ其財產ヲ使用セシムルコトニ此主義
 フ細別スレハ(一)法人ノ遺產ハ國庫ニ收入シ國庫ハ之ヲ法人ノ目的ト同一ノ事
 業又ハ類似ノ目的ニ向ヒテ使用スヘキ義務ヲ有スル主義即チ用途指定ノ財產

トシテ國庫ニ收入スルモノトニ國庫ニ收入セシムラ法人ノ目的ト類似スル目
 的ノ爲メニ遺產ヲ使用セシムルコトヲ許可スル主義トアリ獨逸民法ハ前ノ主
 義ヲ採リ我民法ハ後ノ主義ニ從フ蓋シ國庫ノ會計ニ於テハ收入シタル財產ヲ
 支出スルハ豫算ノ定ムル所ニ依ラナルヘカラナルカ故ニ獨逸民法ノ主義ニ依
 レバ徒ラニ手數ヲ増スニ過キシテ實益ナキヲ以テ此點ニ關シテハ我民法ノ
 主義ヲ適當ナリト信ス
 理事カ法人ノ遺產ヲ其目的ニ類似セル目的ニ向ヒテ處分セントセハ主務官廳
 ノ許可ヲ要スヘキカ故ニ主務官廳ニ於テ其處分ヲ不當ナリト認メタルトキハ
 之カ許可ヲ與ヘサルコトアルベク又社團法人ニ在リテハ總會ノ議決ヲ經サル
 ベカラサルカ故ニ總會ニ於テ之ヲ否決シタルトキハ法定ノ條件ヲ充タスコト
 ヲ得ナルヲ以テ此場合ニ於テハ理事ハ法人ノ遺產ヲ處分スルコトヲ得ナルハ
 論ヲ缺タス加之法人ノ理事カ法定ノ手續ニ依リ解散シタルム法人ノ遺產ヲ處分
 スルト否トハ全ク理事ノ任意ナルヲ以テ時トシテハ理事ハ其處分ヲ爲サナル
 コトアルヘシ此等ノ場合ニ於テハ法人ノ財產ハ國庫ニ歸屬スヘキナリ

法人ハ解散ニ因リテ人格ヲ失フト雖モ爲メニ解散前ニ享有セシ權利及ヒ負擔セシ義務モ同時ニ消滅スヘキモノトセハ法人ニ對スル債権者ノ權利ヲ害スルコト鮮シトセス故ニ法人ノ解散後ニ於テモ其資產、負債ノ關係ヲ明カニシ債務ハ之ヲ履行シ殘餘財產ハ之ヲ權利者ニ引渡ササルヘカラス是レ清算ニ關スル規定アル所以ナリ

清算ノ目的ヲ達セントゼハ解散シタル法人モ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ尙ホ人格ヲ有スルモノトセサルヘカラス(第七三條)法律カ此擬制ヲ設ケタル結果トシテ解散シタル法人ハ尙ホ左ノ法律關係ヲ有ス

- 一 解散シタル法人ハ尙ホ權利ヲ有シ義務ヲ負擔ス
- 二 解散シタル法人ハ解散前ノ主タル事務所ヲ以テ尙ホ住所トス
- 三 解散シタル法人ハ尙ホ清算人ニ依リテ代表セラル

四 解散シタル法人ハ清算中尙ホ破産スルコトアリル

五 清算人ハ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テ法人ノ名稱ヲ使用スルコトヲ得ヘ

清算ノ目的ノ範圍内ニ於テ清算人ヲ代表セラル者ニ於テ清算人ノ名稱ヲ用シテ清算ノ目的ヲ達セントゼハ便宜ノ爲メ之ヲ左ノ數節ニ分ツヘシ

第一 清算人ノ選定及ヒ解任

法人カ破産ニ因リテ解散シタル場合ノ外解散當時ニ於ケル理事其清算人ト爲ルヲ原則トス然レトモ定款又ハ寄附行為ヲ以テ清算人ヲ指定シ若クハ指定スル方法ヲ定メ其方法ニ依リ定マリタルカ或ハ總會ニ於テ特ニ清算人ヲ選定シタルトキハ其者ヲ以テ清算人トス法律カ法人ノ破産ノ場合ニ限リ清算人ヲ要セナルコトヲ規定セシハ此場合ニ於テハ破産法ノ規定ニ從ヒ裁判所カ破産管財人ヲ選任シ之ヲシテ法人ノ法律關係ヲ終局セシムルヲ以テナリ

法律ニ依リ當然清算人ト爲ルヘキ者ナキカ定款寄附行為又ハ總會ノ選任ニ依リテ清算人ト爲ル者ナキカ若クハ清算人ノ死亡又ハ辭任ノ爲メ清算事務ヲ遂行スルコト能ハス隨テ損害ヲ生スル虞アルトキハ裁判所ハ利害關係人若クハ検事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ清算人ヲ選任スルコトヲ得ヘシ(第七四條第

七五條
清算人之職務は清算人として債務者と債権者との間の債権債務を了結する事務である。清算人の職務は公平且迅速ニ之ヲ執行セサル人カラサルモノナルヲ以テ清算人ノ處置ニ付キ多少不服ヲ唱フル者アルカ爲メ又ハ理由ナクシテ濫ニ之ヲ解スルコトヲ得ヘシトセハ清算事務ノ濫濫ヲ來スノミナラス清算人ハ不服ヲ唱フル者ノ歎心ヲ得シコトヲ力メ公平ニ其職務ヲ執行セサルカ如キ弊ナシトセス故ニ一タヒ清算ノ任務ヲ與ヘタル以上ハ容易ニ之ヲ解任スルコトヲ得サルモノトセザルヘカラス然レトモ絕對ニ之ヲ解任スルコトヲ得ストセハ反ヲ種種ナル弊害ヲ生スルコトアルヘキカ故ニ法律ハ裁判所ニ於テ解任ヲ要スヘキ重要ノ事由アリト認メタルトキオ職權ヲ以テ又ハ利害關係人若クハ検事ノ請求ニ因リテ之ヲ解任スルコトヲ得ヘキモノトセリ重要な事由トハ解任ヲ要スヘキ價值アル事實ヲ謂フモノニシテ例へハ清算人カ其職務ヲ行フニ怠慢不公平無經驗ナルカ如キ又ハ不正ノ行爲ヲ爲スカ如キ公平且迅速ニ清算結了スル見込ナキコトヲ判斷シ得ヘキ事由ヲ謂フモノナリ(第七六條)

第二 清算人ノ權限

清算人ハ法定ノ權限ヲ有ス其權限ハ當事者ノ意思ニ依リテ之ヲ伸縮スルコトヲ許ナス而シテ其權限ハ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テ限定セラル之ヲ列舉スレハ左ノ如シ
 (イ) 現務ノ結了は法人ハ其取引ノ施行中途ニシテ解散スルコトナシトセ此場合ニ於テハ其取引ヲ結了スルニ非サレハ法人ト相手方トノ法律關係ハ未確定ノ狀態ニ在ルヲ以テ清算ヲ爲サントセハ先ツ之ヲ確定セシメ權利義務ヲ明カニスルコトヲ要スレムナリヤオドリテ當事人ニ適用せしる事例以テ之類似
 (ロ) 債權ノ取立及ヒ債務ノ辨済同清算人ハ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テ法人ヲ代表スルカ故ニ解散セシ法人ノ權利ハ清算人ニ依リテ行使セラレ其義務モ清算人ニ依リテ履行セラルヘキハ當然ナリトス
 (ハ) 残餘財産ノ引渡一法人ノ財産ヲ以テ其債務ヲ辨済シ猶ホ殘存セル財産アルトキハ之ヲ歸屬権利者ニ引渡ササルヘカラス加之清算人ハ以上ノ職務ヲ爲スニ付キ必要ナルトキハ裁判上ト裁判外トヲ問ハス一切ノ行爲ヲ爲スコトヲ得例ヘハ債務ヲ履行セザル者ニ對シ強制履行ノ訴ヲ提起スルカ如キ辨済ノ受

領ヲ拒ミタル債権者ニ對シテハ債権之目的物ヲ供託スルカ如シ職ヲ轉換ト受
 ルニ第三ニ清算人ノ義務並に清算長ノ職務一職ヲ資格を備エセん
 (イ)登記及ヒ届出ノ義務同上但モ清算人ノ職務又は清算人ノ代理人又は監督人
 清算人ハ法人解散後一週間内ニ其氏名、住所及ヒ解散ノ原因、年月日ノ登記ヲ申
 請シ且之ヲ主務官廳ニ届出テナルヘカラス若シ清算中ニ就職シタルトキハ就
 職後一週間内ニ其氏名住所ニ付キ登記ヲ申請シ且主務官廳ニ届出テナルヘカラス又清算カ結了シタルトキハ同シク之ヲ主務官廳ニ届出テナルヘカラス此
 登記ヲ申請スルコトヲ怠リタルトキハ清算人ヘ五圓以上二百圓以下ノ過料ニ
 處セタム(第七七條第八三條第八四條)
 (ロ)告公告ヲ爲ス義務の課したる其セラム時事或ニ事件又は事件の開示傳達等を想
 清算人ハ就職ノ日ヨリ二箇月内ニ少クトモ三回ノ公告ヲ爲シ債権者ニ對シテ
 二箇月ヲ下ラナル一定ノ期間内ニ請求ノ申出ヲ爲スヘキコトヲ催告スヘキ義
 務ヲ有ス是レ清算ハ公平ニ債権者ヲ満足セシムルヲ以テ目的トスルモノナル
 カ故ニ清算ノ開始ミラレタルコトヲ知ラヌシテ債権ノ申出ヲ爲サヌ爲メニ清

方ニ到达スルコトハ生スヘカラサルノ事實ナルカ如シト雖モ夫カ取消ノ通知
 フ發シタル後死亡シ妻カ追認ノ通知ヲ發シタルニ其通知ヲ夫ノ通知ト同時ニ
 相手方ニ到达シタル場合ヲ想像シ得ナルニ非ス蓋シ妻ヲ以テ無能力者トシ其
 行爲ヲ以テ取消シ得ヘキモ又ト爲シタルハ夫権ヲ保護スルノ目的モ出タル
 モニシテ妻ノ取消權全タ夫ノ取消權ニ附隨シテ生シタルモナリ故ニ夫
 又ハ妻ノ意思表示ニ前後アリトキハ前者ハ常ニ後者ニ勝ルモノト爲ナサルヘ
 カラスト雖モ同時ニ效力ヲ發生スヘキ狀態ニ在リ而モ二者相容レタルモノナ
 ルトキハ法律カ保護セントシタル者即チ夫ノ意思ニ向ヒテ重キヲ置カサルヘ
 カラス人或ハ之ヲ以テ立法論ナリト爲ス者アルヘシト雖モ法文上ニ明載ナル
 判斷ヲ下スメ標準ナキトキハ立法ノ理由が解釋ヲ左右スルノ有力ナル標準ナ
 リト謂ハナルヲ得ス又ハ場合ニ關大九鼎安々器々器々夫々禮樂次第セ其始末
 (丙)追認權ヲ行フニト得ル時期ニ追認之法律行為ヲ確定ナシメン不斯
 セノナルカ故ニ追認其モノニシテ取消シ得ヘキモノナルトキハ追認タル致ナ
 キモノトス取消ノ原因タル情況メ存スル間ニ於テノ爲シタル追認ハ追認其モノ

モ亦取消シ得ベキ行爲タルガ免レサルヘシ故云確定ナル追認ヲ爲ス。此其セハ取消ノ原因タル情況顯チ無能力又ハ詐僞ニ因ル錯誤若クハ強迫シ固ル畏怖大止ミタル後ニ於テ之ヲ爲サナルベカラス(第一二四條第一項)但是レ行爲者々單獨ニ追認ヲ爲シントスル場合ニ關スル規定ナリ若シ夫レ無能力者カ其法定代理人ノ同意ヲ得タルトキハ無能力ナル情況存スルモ仍ホ追認ヲ爲スコト可得ルモノナリ何トナシハ法定代理人ノ同意ナルトキハ無能力者六新ニ法律行爲ヲ爲スコトスラ之ヲ爲シ得ルモノナルカ故ニ既ニ爲シタル法律行爲ヲ追認ヲ爲スコトヲ得ベキハ勿論ナルヲ以テナリ。但ニ吾等之謂がニ未然時勢也。蓋シ大無能力者ノ法定代理人又ハ夫カ取消權ヲ有スル無能力者ナルカ故ニ非ス隨テ其追認モ亦或時期ニ至ルヲ待ツノ要アキモナリ故ニ法定代理人又ハ夫夫取消シ得ベキ行爲アリタル以後爲何時ニテモ之ヲ追認スバシド可得ルモノナリ(第一二四條第三項)。合意書類の假を以テ其事實を證明するに當りて確固狀跡ナリ其第百二十四條第二項所依レシ禁治產者無能力ヲ同復スルモ取消シ得ベキ行爲ヲ丁知シタル後ニ非サレハ追認ヲ爲スコトヲ得サルコトヲ規定ス此能文也法

文トシテハ無意義ノモウナリ何トナレハ事實ヲ了知スルニ非サレハ追認ナルコトヲ生セス追認スルハ即チ事實ヲ了知シタルモノナルヲ以テナリ恐ラクハ本條文ハ次ノ二條ノ法文ヲ簡略ニスル便ヲ得ルカ爲シ設ケタガ法律文學上ノ便宜規定タルニ過キサルヘシ誠ニ開示此處猶未だ然大半實例未だ有ヘシ。(丁) 追認權ヲ行フ方法。追認權ヲ行フ方法ハ取消權ヲ行フ方法ト同シタ裁判所ニ訴フルコトヲ要セス單ニ追認ノ意思ヲ表示スレバ足レリ而シテ相手方カ確定セサル場合ニ於テム如何ナル方法ヲ以テ之ヲ爲スモ可ナリ。筆難モ相手方ノ確定セル場合ニ於テム之ニ對シテ其意思ヲ表示セサルヘカラス。又テ不當追認ノ意思表示ハ明示又ハ默示ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ベシ。而シテ默示ノ意思表示示中左ノ場合ハ法律ニ於テ追認ヲ爲シタルモノト看做スヲ以テ反證ヲ許サヌルモノトス(第一二五條)

- (イ) 取消シ得ベキ行爲ヨリ生シタル義務ノ全部又ハ一部ヲ履行シタルトキ
- (ロ) 取消シ得ベキ行爲ヨリ生シタル義務ノ履行ヲ請求シタルトキ
- (ハ) 取消シ得ベキ行爲ヨリ生シタル權利又ハ義務ノ更改ヲ爲シタル事キ

(二) 取消シ得ヘキ行爲ヨリ生シタル義務ニ付キ擔保ヲ供與シ又ハ擔保ノ供與ヲ請求シタルトキ

(ホ) 取消シ得ヘキ行爲ニ因リテ取得シタル權利ノ全部又ハ一部ヲ讓渡シタルトキ

(二) 取消シ得ヘキ行爲ヨリ生シタル權利又ハ義務ニ付キ強制執行ヲ爲シ又ハ強制執行ヲ受ケタルトキ
右ニ掲ケタル場合ハ取消シ得ヘキ行爲ヨリ權利又ハ義務ノ發生シタルコトヲ前提トスルニ非サレハ成立スルコト能ハカルヲ以テ右ノ場合ニ該當シタル者ハ取消シ得ヘキ行爲ニ因リテ權利ヲ得又ハ義務ヲ負ヒタルコトヲ自認シタルモノト謂ハサルヘカラス故ニ法律ハ之ヲ以テ默示ノ追認ト推定シタルナリ但追認ヲ爲スコトヲ得ナル時期ニ於テハ明示ノ追認スラ之ヲ爲スコト能ハサルカ故ニ默示ノ追認ナルモノアルヘカラサルコトハ言ヲ須タス又右ノ場合ニ該當シタル者カ自ラ默示ノ追認ヲ爲スニ非ナルコトヲ明言スルトキハ默示ノ追認ト看ルヘカラサルハ勿論ナルヲ以テ右ノ場合ニ該當スルト同時ニ異議ヲ留

タルトキハ追認ナル效力ヲ生スルコトナカルヘシ故ニ此二場合ハ自ラ法律ノ推定ニ對シ例外ヲ爲スモントス
 (二) 時效取消權ハ追認ヲ爲スコトヲ得ル時ヨリ五年間之ヲ行ハヌル計キハ時效ニ因リテ消滅スルモノトス(第一二六條前段)凡ソ取消シ得ヘキ法律行為ニ因リテ生シタル權利ハ何時取消ニ遭フテ消滅スルニ至ルモ測ルヘカラサルモノノナルヲ以テ此ノ如キ權利ヲ有スル者ノ法律上ノ地位ハ實ニ不確實ナルモノト謂ハサルヘカラス而シテ不確實ナル法律關係ノ長タ存續スルコトハ社會經濟上極メテ不利益ノ事ニ屬ス故ニ取消權ヲ與ヘテ保護セントシタル趣旨ヲ達スル以上ハ此ノ如キ狀態ハ成ルヘク速ニ之ヲ消滅セシムルノ必要アリ是レ法律カ特ニ短期ノ時效ヲ設ケタル所以ナリ然ルニ取消權ノ時效ハ常に追認ヲ爲スゴトヲ得ル時ヨリ五年ヲ經過スルヲ要スルモノト爲ストキハ時シヲ法律カ特ニ短期ノ時效ヲ設ケタル所以ナリ趣旨ヲ達スルコト能ハサルヘシ何トナレハ取消ノ原因カ無能力ニ在ルトキハ時ニ數十年ニ涉リテ其情況メ止マナルコトアルヘク又禁治產者カ能力ヲ回復スルモ久シク取消シ得ヘキ行爲ヲ了知セ

キハ未タ追認ヲ爲スコトヲ得ル時ヨリ五年ヲ経過セナル其行爲シ時效ニ罹ルモノト爲シテ無能力者又ハ瑕病アル意思表示ヲ爲シタル者ヲ保護スルト同様ニ成ルヘタ速ニ不確實ナル法律關係ヲ確定セシム趣旨ヲ實タセコトヲ期シタリ(第一二六條後段)。人ハ法律ノ制限内ニ於テ行爲ノ自由ヲ有ス行爲ノ自由ヲ有ス者ハ亦行爲三條件又ハ期限ヲ附帶セシムルノ自由ヲ有セサルヘカラズ何ト子孫の條件又ハ期限ヲ附帶スル行爲モ亦一種ノ行爲ニ外ナラサルヲ以テナ國然レモ法律行為ニ依リテハ性質上條件又ハ期限ヲ附帶スルコトヲ許サナルモノアリ故ニ人カ條件附法律行爲又ハ期限附法律行爲ヲ爲スコトヲ得ルノ法律ニ於テ禁止セサル場合ニシテ而モ亦法律行爲ノ性質之ヲ許ス場合ニ限ルモノナリ以下條件及ヒ期限ヲ二款ニ分チ簡述ニ説明スル所ナラシトス是ニ就ニ當合ニ有ス

第五節 條件及期限

第一款 第一條件

第一條件ノ性質古其上ニ過度也以次次處置言ハシテ此等ノ事実ニ繋ガモノ又謂アモニシテ例ヘハ或汽船カ安全ニ某港ニ到著シタルトキハ一萬圓ニ贈與スニシテ
ニ契約ナ如キモニテ謂ア故ニ法律行爲ニ附帶シタル條件メ定義タ與ヘントセ
ハ條件トハ法律行爲本來ノ目的タル效力ノ發生又ハ消滅ヲ繫ラシメタル不確
實ノ事實ナリト謂フコトヲ得ヘシ子ハ今條件ノ性質ヲ明カニスルカ爲ヌ此定
義ヲ解剖シ其内容ノ如何ヲ見シトスニ就特ニ古事記、福音、聖經、新約全書
ハ條件ハ事實ナリ若シ某ノ妻カ男子ヲ分娩スルナラハ某ニ一萬圓ニ贈與
スヘシトノ契約又ハ若シ某カ其妻ヲ離婚スルナラハ之ニ爲シタル贈與ハ其號
力ヲ失フヘシトノ契約ニ於テ某ノ妻カ男子ヲ分娩スルコト又ハ某カ其妻ヲ離
婚スルコトハ其契約ノ條件ナリ而シテ此ノ如キハシテノ事實ニ遇キナル以テ
條件ナムモノハ一事實大異ト謂アサムヘカラス人或ハ法律行爲ノ效力ヲ或

事實ニ繫ラシメタルコトヲ以テ條件ト爲シ條件ハ一ノ意思表示ナリト爲ス者アリト雖モ是レ條件其モノト法律行為ニ條件ヲ附帶セシヌタルコトヲ混同シタルモノナリ法律行為ニ條件ヲ附帶セシムルコトハ條件附法律行為ヲ爲スノ意思ノ一部ヲ成スモノナルカ故ニ或ハ之ヲ以テ意思表示ナリト謂フコト能ハナルニ非スト雖モ法律行為ニ附帶セシヌタル条件其モノハ一ノ事實ニシテ意思表示ニ非ス民法九條件ノ成就又ハ條件ノ成否未定等ノ語ヲ使用スルヲ以テ觀ルモ條件ハ事實ニシテ意思表示ニ非サドコナリ容易ニ之ヲ知ルコトヲ得ヘシ

(二) 條件ハ不確實ノ事實ナリ此條件ハ成否を不確實ナル事實ナラナルヘカラス何トナレハ法律行為ノ效力又成否を確定シタル事實ニ繫ラシムルハ全ク無意義ノコトタルニ非スンハ則チ其法律行為ヲシテ期限附シモノ又ハ無効ノモノタラシムルノ三者其一二遇キナルヲ以テナリ換言スレハ法律行為ノ效力ヲ成否ノ確定シタル事實ニ繫ラシムルトキハ左ニ記載スルカ如ク嘗テ條件附法律行為ナルモノヲ生スルコトナキモノナリ

法ニ依リ此權利ニ因リテ得バト同一ノ目的ヲ達スルモノトヲ得是ヲ以テ我民法ハ役權中地的役權ハミヲ認メ人地的役權ヲ認メサリキ地的役權ハ即チ民法ニ所謂地役權^ノ謂ナリトス故ニ地役權ハ如何ナビ權利ナリヤト云ヘハ地役權ハ他物上權ノ一種ニシテ土地ヲ目的トスル權利ニシテ一定ノ土地ノ便益ノ爲メニ他人ノ土地ヲ使用スル權利ナリト謂フシ今地役權ニ付テ其要點ヲ舉タレバ左ノ如シ實其過又其過當更過當矣或又實其過當矣或又實其過當矣或又實其過當矣第一種地役權ハ土地ノ上ニ存スル他物上權ノ才ナカニ於此點^ノ地上權及ヒ永小作權ト同一大支り敷地耕作地等又或實其過當矣或又實其過當矣或又實其過當矣第二種地役權ニハ必ス二箇ノ土地ノ存在スルコトヲ必要としてハ地役權^ノ因リテ利益ヲ受クル土地ニシテ之ヲ要役地ト謂ヒ一ハ地役權ニ因リテ使用セラル土地ニシテ之ヲ承役地ト謂フ此二箇ノ土地ハ必ス地役權ニ存在スルコトヲ要ス實其過又其過當矣或又實其過當矣或又實其過當矣或又實其過當矣第三種地役權ハ一定ノ土地ノ便益ノ爲メニ存スル權利ナリ^ノ即チ地役權ハ所謂要役地ノ爲メニ存スル權利ニシテ其結果地役權ハ要役地ヲ離ヒ獨立シ^ノ存

スルコトヲ得ニ(二)地役權ハ要役地ト其ニスルニ非サレニテ賣買讓與
得ス(三)地役權ハ要役地ニ從タルモノトシテ要役地ノ所有權ノ移轉
スルコトヲ原則トス(四)地役權ハ其權利ノミカタ土地ヨリ分離シテ處分スルコト
ヲ得ス(五)地役權ハ要役地ノ上ニ收益權ヲ有スルコトナリ此點ニテ地役權
ニ屬スル所以ナリ地役權ハ如何ナル使用權ヲ土地ノ上ニ有スルカ之ニ關シテ
ハ三種ニ分類スルコトヲ得(一)單ニ其土地ノ上ニ收益權ヲ有スルコトはナリ
例ヘハ果實其他ノ生産物ヲ收益スル如シ(二)ハ單純ナル使用權ニ止マル例ヘハ
其土地ヲ通行スル如シ(三)ハ一種ノ禁令權ナリ例ヘハ隣地ニ於テ眺望ヲ害セテ
ルカ為メニ一定ノ建物ノ建設ヲ禁スル如シ(四)ハ上記ノ上級ノ更益權也此
次ニ地役權ト他ノ物權トノ差異ヲ舉クレハ左ノ如シ(ナ)イ夫ニテ地役權の當
第一回地役權ト質權及び抵當權トノ差異説ナリ夫ニテ地役權を用ひ得キ矣若キ地
地役權ハ單ニ土地ヲ使用スルノ權利ニ過ぎシテ土地ノ使用ヲ以テ其目的居

スルモ質權及ヒ抵當權ニ在リテハ其目的物ヲ債權ノ擔保ニ供スベコトヲ以テ
目的トス即チ必要アル場合ニハ其目的物ヲ賣却シテ其實價ヲ以テ債權ノ辨済
ニ充ツルモノトス是レ兩者ノ差異ナリトスヘ因ニ而亦然可矣然又假ノ為
第二 地役權ト地上權及ヒ永小作權トノ差異 地役權ハ發明於歐美之先也第
(一)其權利ノ範圍ヲ異ニス即チ地役權ハ其目的タル土地ニ對シテ之ヲ使用スルニ
止マルモ地主權及ヒ永小作權ハ其使用ノ範圍甚タ廣クシテ殆ド所有權ニ酷似
スルコトアリニ之ニ反シ地役權ハ全タ所有權ノ從タル權利ニ既テ他人ノ所有ス
ル土地ノ上ニ從タル使用ヲ爲スニ止マルモノトス(二)地役權ハ必ス一定ノ土地
ノ便益ノ爲メニ存スルモ地上權及永小作權ハ一定ノ土地ノ便益ノ爲メニ存スル
コトヲ要セス却テ或一定ノ人ノ爲メニ存スルモノナリ是レ兩者ノ差異ナリト
ス開カニ附記此處者ヨリ前段ノ説攝及大體ニ就キ此雖附註又一特點也標榜其後
第二章 地役權ノ性質 此章ノ題名は地役權ノ性質也然ニテ前章ノ題名也
地役權ノ性質ニ付テハ學者間種種ノ議論アリ或ハ(一)地役權ヲ以テ要役地ノ所

第二章 地役権ノ性質

有權ノ擴張ナリトスル者アリ此說ハ所有權ノ觀念ト相容レス何トナレハ要役地ノ所有權ハ要役地ノ上ニミ限ラルモノナルニ地役權ハ要役地ノ上ニ存スル權利ニ非スシテ承役地ノ上ニ存スル權利ナレハナリ或ハ(二)地役權ハ要役地ニ從タル權利ナリトスル者アリ此說ハ大體ニ於テ地役權ノ一性質ヲ明カニスルモノナルモ要役地アル必ス地役權存在スルモノニ非サレハ此說モ亦允當ナリト謂フコトヲ得ス或ハ(三)地役權ハ要役地ノ有スル權利ナリトスル者アリ是レ要役地ヲ以テ地役權ノ主體ナリトスルモノニシテ其民法ノ規定ト相容レサルハ明白ナリ若シ要役地カ地役權ノ主體ナリトセハ要役地ノ所有者カ承役地ノ所有者ト爲ルモ仍ホ其權利ハ存續スト謂ハサルヘカラサルモ此場合ニハ混同ニ因リ地役權消滅ストスルコト通例ナリ又以テ此說ヲ實クコト能ハサルヲ知ルヘシ第一七九條或ハ(四)地役權ハ承役地ノ所有權ヲ分割スルモノナリトスル者アリト雖モ所有權ヲ分割スルノ觀念ハ既ニ所有權ノ章下ニ於テ述ヘタル如ク一ノ誤見ニシテ之ヲ採用スルコトヲ得サルモノトス然ラハ如何ニ之ヲ説明スヘキカ予ハ地役權ハ承役地ノ所有權ノ制限ナリトスルヲ以テ最モ常ヲ

得タル說ト信ス蓋シ地役權カ承役地所有權ノ制限タルコトハ地役權カ他物上權タルコトノ當然ノ結果ニシテ亦說明ヲ要セナルナリ豈異ニ別リ後段終ニ地役權ノ性質トシナ尙ホ一言スヘキモノナリ即チ地役權ハ其性質不可分ナルコト是ナリ所謂不可分ハ地役權ハ其承役地全體ノ上ニ要役地全體ノ爲メニ存スルコトヲ謂フ隨テ地役權ハ要役地ノ一部若クハ承役地ノ一部ノ爲メニ存スルコトナキヲ原則トス此點ハ共有權ノ場合ニ適用アリ即チ(一)要役地若クハ承役地ノ所有權カ一人ニ屬セシムシテ數人ニ屬スル場合ニ於テハ其一人ノ共有者ノ爲メニノミニ地役權ヲ存在セシム若クハ消滅セシムルコトヲ得ス(二)要役地ヲ分割シタルトキハ地役權ハ分割セラレタル要役地ノ各部ノ爲メニ亦存在スル如シ例ヘハ茲ニ二ノ土地アリテ其土地ノ爲ミニ地役權存在スル場合ニ於テハ其要役地カ二箇ニ分割セラレタルトキハ其要役地ノ各部分ハ亦各地役權ヲ有スルモノトス(三)地役權ハ分割セラレタルトキハ其要役地ノ各部分ハ亦各地役權ヲ有スルモノトス

第三章 地役權ノ種類

地役權ノ種類ハ種種アリ其主要ノモノヲ舉クレハ左ノ如シ

第一 積極的地役權及ヒ消極的地役權 積極的地役權トハ承役地ニ對シテ直接ニ行爲ヲ加フルコトニ依リテ權利ヲ行使スル地役權ヲ謂フ例ヘハ通行權ノ如シ消極的地役權トハ其承役地ノ上ニ或事項ヲ禁止不ルニ依リテ權利ヲ行使スル地役權ナリ例ヘハ眺望權ノ如キ是ナリ

第二 繼續的地役權及ヒ非繼續的地役權 繼續的地役權トは地役權ノ行使セラルル狀態カ常ニ繼續スルモノヲ謂フ例ヘハ通行權ノ如シ非繼續的地役權トハ或一定ノ時期ニ限リ地役權ヲ行使スルモノヲ謂フ例ヘハ收穫ノ時期ニ限リ入會權ノ如シ

第三 表見的地役權及ヒ不表見的地役權 是レ地役權ノ成立之外面干渉ハルト否トニ依リ區別スルモノニシテ例ヘハ通行權ノ如キハ表見的地役權ニシテ或事項ヲ禁止スルノ地役權ハ不表見的地役權ナリトス
第四 宅地地役權及ヒ耕地地役權 是レ地役權ヲ其要役地ノ性質ニ依リ分類スルモノニシテ宅地地役權トハ其要役地カ宅地ニ屬スルモノヲ謂ヒ耕地地役

權ハ其要役地カ耕地ニ屬スルモノヲ謂フ

第四章 地役權ト所有權トノ關係

地役權下所有權トノ關係ニ付キ特ニ注意スヘキモノアリ其關係大體ノ如ク
第一 所有權ハ地役權ノ範圍内ニ於テハ地役權ノ行使ニ依リ制限ヲ受タルモノトシテ所有權カ制限セラル範圍ハ或ハ契約ニ依リ或ハ地役權ノ性質ニ依リテ定マリ一定セサルモ之ニ關シ何等ノ協定アラカルトキハ其制限ノ範圍ハ要役地ノ使用ノ爲メニ必要ナルノ分量ヲ以テ限度スヘキモノトス
第二 承役地ノ所有者ハ地役權ヲ設定シタル後ニ第三者ニ對シテ亦同種ノ地役權ヲ設定スルコトヲ得但之エ因リ最初ノ地役權者ニ損害ヲ與フルコトヲ得ス
第三 地役權者ハ其權利ヲ行使スルニ當リ地役權ノ爲メニ所有權ヲ制限スルコトヲ得ルモ此權利ヲ濫用シテ其目的以外ニ之ヲ使用スルコトヲ許サス

第五章 地役權ノ取得及ヒ消滅

地役權ノ主要ナル取得原因ヲ舉クレハ左ノ如シ
 第一 契約ニ因リ地役權ヲ設定スルコトヲ得
 第二 遺言ニ因リ地役權ヲ取得スルコトヲ得
 第三 時效ニ因リ地役權ヲ取得スルコトヲ得
 第四 平穩且公然ニ地役權ヲ行使スル者ニシテ其行使ノ始ニ當リ善意且無過失ナレハ十年ニシテ地役權ヲ取得スルモノトス(第一六三條、第一六二條第一項)
 (二)地役權ヲ平穩且公然ニ行使ハ繼續的ノ性質ヲ有セス且其行使ノ状態ハ外部ニ表得スルモノトス(第一六三條、第一六二條第二項或種類ノ地役權ヲ取得時效ノ利益ヲ受クルコトヲ得ス即チ不繼續的地役權及ヒ不表見的地役權是ナリ何トナレハ此等ノ地役權ノ行使ハ繼續的ノ性質ヲ有セス且其行使ノ状態ハ外部ニ表ハレサルヲ以テ之ニ取得時效ヲ認ムハ所有者ノ爲メ甚タ不利益ナレハナリ
 (第二八三條)

次ニ地役權ノ主要ナル消滅原因ヲ舉クレハ左ノ如シ

第一 混同ノ場合 混同トハ我民法物權編ノ總則ニ認ムル一ノ原則ニシテ混同ノ事實存スルトキハ他物上權ハ消滅スルコトヲ本則トス(第一七九條即チ地役權ノ場合ニ於テモ要役地ノ所有者カ承役地ノ所有權ヲ得タルトキハ即チ一ノ混同ノ場合ニシテ地役權消滅スルモノトス地役權ニ付テハ尙ホ特種ノ混同アリ第二百八十七條ノ規定是ナリ此場合ハ承役地ノ所有權ノ全部カ要役地ノ所有者ノ所有ト爲ルニ非ス承役地ノ中要役地ノ爲メ最モ必要ナル部分ノミノ所有權ヲ得ルニ因リテ消滅スルモノニシテ是レ亦一ノ特別ナル混同ニシテ承役地ノ權利ノ爲ノニ特ニ法律カ設ケタル一種ノ消滅原因ナリ
 第二 地役權ヲ消滅時效ニ罹ル場合 地役權二十十年間之ヲ行使セサルトキ
 ハ消滅スルモノトス(第一七六條第一項)此期間ハ繼續的地役權ニ在リテハ其地役權ノ行使ヲ妨ケタル事實ノ生シタル時ヨリ起算シ不繼續的地役權ニ在リテハ其地役權ヲ行使シタル最後ノ時期ヨリ起算スビモノトス(第二九一條)
 第三 地役權ニ期限ノ設アル場合ニハ其期間ノ満了ニ因リテ消滅ス 是レ當

民法物權

至第六章

法學士 中山成太郎講述

(三十五年度講義錄)

第三編　地權
第一章　地權者之承認及地權之取扱
第二章　地權者之轉讓及地權之喪失
第三章　地權者之變動及地權之存續

民法物權

(至第六章)

著者　中山鉉太郎

自序

著者　中山鉉太郎

民法物權

(三十五年五月版)

民法物權(至第六章)目次

第一編 緒論

第一章 私權ノ觀念

第二章 私權ノ分類

第三章 物權ノ定義

第四章 物權ノ種類

第五章 物權ノ效力

第六章 物權ノ淵源

第七章 物權ノ取得及ヒ喪失ニ關スル原則

第一編 占有權

第一章 占有權ノ意義

第二章 占有保護ノ理由

第三章 占有ノ種類

第一編 占有權

第一章 占有權ノ意義

第二編 地權

民法物權目次

第四章 占有権ノ取得及ヒ喪失

第一節 占有権ノ取得 六〇

第二節 代理人ニ依ル占有権ノ取得 六〇

第三節 意思ニ依ル占有権ノ取得 六六

第四節 占有権ノ喪失 六九

第五章 占有権ノ效力

第一節 占有訴権 七六

第二節 占有者ハ適法ニ権利ヲ有スルモノト推定セラル 九四

第三節 占有者ハ権利ヲ取得ス 九五

第四節 占有者ハ果實ノ所有権ヲ取得ス 一〇五

第六章 準占有

第一節 準占有ノ意義 一〇八

第二節 準占有ノ範囲 一一二

第三節 單占有ノ取扱及ヒ喪失

第四節 單占有ノ效力 一四四

第三編 所有権

第一章 所有権ノ意義

第二章 所有権ノ作用 一四五

第三章 所有権ノ目的物 一三一

第四章 所有権ノ限界 一三五

第五章 所有権ノ取得及ヒ喪失 一五二

第一節 所有権ノ取得 一五二

第一款 先占 一五三

第二款 工作者ヲハ加工 一五五

第三款 附合 一五七

第四款 混和 一六一

第五款 埋藏物ノ發見 一六一

異法物權目次

四

第六款 遺失物拾得	一六三
第七款 所有權ノ讓渡	一六四
第八款 時效	一六六
第二節 所有權之消滅原因	一六八
第六章 共有權	一六九
第四編 入會權	一八〇
第一章 入會權ノ意義	一八〇
第二章 入會權人性質	一八一
第三章 入會權人範圍	一八二
第四章 地役權人性質ヲ有スル入會權	一八四
第一節 意義	一八四
第二節 性質	一八六
第三節 範圍	一八七
第五章 共有權ノ性質ヲ有スル入會權	一九一

民法總則 第一節 意義	一九二
第二節 性質	一九二
第三節 範圍	一九二
第六章 債權ノ性質ヲ有スル入會權	一九六
第一節 意義	一九六
第二節 性質	一九六
第三節 範圍	一九八
第七章 入會權ニ關スル特種ノ權利	一九八
第五編 地上權	二〇〇
第一章 地上權ノ意義	二〇一
第二章 地上權者ノ權利	二〇一
第三章 地上權者ノ義務	二〇五
第四章 地上權入設定及々消滅	二〇六
第六編 索永小作權	二〇八
異法物權目次	五

第一章 永小作權ノ意義	一〇八
第二章 永小作人ノ權利	一一〇九
第三章 永小作人ノ義務	一一〇
第四章 永小作權ノ取得及ヒ喪失	一一二

第七編 地役權

第一章 地役權ノ意義	一一四
第二章 地役權ノ性質	一一七
第三章 地役權ノ種類	一一九
第四章 地役權ト所有權トノ關係	一二一
第五章 地役權ノ取得及ヒ消滅	一二二

民法物權(自第一章至第六章)目次終

之ヲ受ケサルヨリヲ得ルナリ今公使ヲ拒絶シタル實例ヲ舉クレハ千八百八十五年北米合衆國ヨリ伊太利國ニケレバナル者ニ公使トシテ派遣シタルニ伊太利ハ曰ク「ケーレ」ハ嘗テ伊太利王ヲ屬吾シタルカ故ニ彼ヲ公使トシテ受タル欲セント現ニ駐在セル公使ヲ中途ニ於テ拒絶シタル實例ハ或國ヨリ合衆國ニ駐在セシ公使々白晝公然淫賣婦ヲ俾ヒテ公園ヲ散歩シタリシテ以テ拒絶シタルモノ如ク又明治十八年我國カ和蘭公使ヲ拒絶シタルカ如ジ
以上ハ國家ノ義務ヨリ觀察シタルモノナレトモ先フ權利ノ方面ヨリ觀テ一國ハ公使ヲ派遣スルノ權利アリヤ否ヤ決スルノ必要アリ此問題係國家ノ種類ニ依リテ異ナガラ以テ左ニ之ヲ分説スベシ
(一)各一部主權國及上主權國ヲシテ外交上ノ全部又ハ一部ヲ代表セシムル國ノ大権故此條約ノ内容如何ニ因チテ此權利ヲ認ヌラルムコト差アリ且全然之ヲ認ヌラルナシエリアリ戰爭以前ノ「トランサク」ノ如キハ公使ヲ出ス權利又認ムテビ止耳其後如斯ニア認ムテビ又安南者如矣ハ外國ニ對シテ如何ナル事ヲモ佛國ノ許可ナクシテ爲スコト能ハケルカ故ニ公使

(二) 政合國¹ 政合國カ外國ニ公使ヲ派遣スル権利又有スル為政合國其モ大國シテ其構成分子奥ル各國ニ非ヌ例ヘハ換太利匈牙利國ノ如キ是ナリ此等ノ公(三) 君合國² 君合國ハ君主ヲ一ニシテ各ノ主ニシテ各國家別ニスル故ニ君合各國各公使授受ノ権利又有スル為政合國³ 合衆國ハ一議會ノ公使(四) 合衆國⁴ 国内ニ於テ各州各異ナリタル法律ヲ有スルカ如キコトアレントモ國際法上ヨリ觀レハ各州カ主體ニ非ヌ隨テ公使授受ノ権利モ亦合衆國⁵ 各州ニ存セヌ⁶ 之處者⁷ 云々⁸ 之處者⁹ 云々¹⁰ 之處者¹¹ 云々¹² 之處者¹³ 云々¹⁴ 之處者¹⁵ 云々¹⁶ 之處者¹⁷ 云々¹⁸ 之處者¹⁹ 云々²⁰ 之處者²¹ 云々²² 之處者²³ 云々²⁴ 之處者²⁵ 云々²⁶ 之處者²⁷ 云々²⁸ 之處者²⁹ 云々³⁰ 之處者³¹ 云々³² 之處者³³ 云々³⁴ 之處者³⁵ 云々³⁶ 之處者³⁷ 云々³⁸ 之處者³⁹ 云々⁴⁰ 之處者⁴¹ 云々⁴² 之處者⁴³ 云々⁴⁴ 之處者⁴⁵ 云々⁴⁶ 之處者⁴⁷ 云々⁴⁸ 之處者⁴⁹ 云々⁵⁰ 之處者⁵¹ 云々⁵² 之處者⁵³ 云々⁵⁴ 之處者⁵⁵ 云々⁵⁶ 之處者⁵⁷ 云々⁵⁸ 之處者⁵⁹ 云々⁶⁰ 之處者⁶¹ 云々⁶² 之處者⁶³ 云々⁶⁴ 之處者⁶⁵ 云々⁶⁶ 之處者⁶⁷ 云々⁶⁸ 之處者⁶⁹ 云々⁷⁰ 之處者⁷¹ 云々⁷² 之處者⁷³ 云々⁷⁴ 之處者⁷⁵ 云々⁷⁶ 之處者⁷⁷ 云々⁷⁸ 之處者⁷⁹ 云々⁸⁰ 之處者⁸¹ 云々⁸² 之處者⁸³ 云々⁸⁴ 之處者⁸⁵ 云々⁸⁶ 之處者⁸⁷ 云々⁸⁸ 之處者⁸⁹ 云々⁹⁰ 之處者⁹¹ 云々⁹² 之處者⁹³ 云々⁹⁴ 之處者⁹⁵ 云々⁹⁶ 之處者⁹⁷ 云々⁹⁸ 之處者⁹⁹ 云々¹⁰⁰ 之處者¹⁰¹ 云々¹⁰² 之處者¹⁰³ 云々¹⁰⁴ 之處者¹⁰⁵ 云々¹⁰⁶ 之處者¹⁰⁷ 云々¹⁰⁸ 之處者¹⁰⁹ 云々¹¹⁰ 之處者¹¹¹ 云々¹¹² 之處者¹¹³ 云々¹¹⁴ 之處者¹¹⁵ 云々¹¹⁶ 之處者¹¹⁷ 云々¹¹⁸ 之處者¹¹⁹ 云々¹²⁰ 之處者¹²¹ 云々¹²² 之處者¹²³ 云々¹²⁴ 之處者¹²⁵ 云々¹²⁶ 之處者¹²⁷ 云々¹²⁸ 之處者¹²⁹ 云々¹³⁰ 之處者¹³¹ 云々¹³² 之處者¹³³ 云々¹³⁴ 之處者¹³⁵ 云々¹³⁶ 之處者¹³⁷ 云々¹³⁸ 之處者¹³⁹ 云々¹⁴⁰ 之處者¹⁴¹ 云々¹⁴² 之處者¹⁴³ 云々¹⁴⁴ 之處者¹⁴⁵ 云々¹⁴⁶ 之處者¹⁴⁷ 云々¹⁴⁸ 之處者¹⁴⁹ 云々¹⁵⁰ 之處者¹⁵¹ 云々¹⁵² 之處者¹⁵³ 云々¹⁵⁴ 之處者¹⁵⁵ 云々¹⁵⁶ 之處者¹⁵⁷ 云々¹⁵⁸ 之處者¹⁵⁹ 云々¹⁶⁰ 之處者¹⁶¹ 云々¹⁶² 之處者¹⁶³ 云々¹⁶⁴ 之處者¹⁶⁵ 云々¹⁶⁶ 之處者¹⁶⁷ 云々¹⁶⁸ 之處者¹⁶⁹ 云々¹⁷⁰ 之處者¹⁷¹ 云々¹⁷² 之處者¹⁷³ 云々¹⁷⁴ 之處者¹⁷⁵ 云々¹⁷⁶ 之處者¹⁷⁷ 云々¹⁷⁸ 之處者¹⁷⁹ 云々¹⁸⁰ 之處者¹⁸¹ 云々¹⁸² 之處者¹⁸³ 云々¹⁸⁴ 之處者¹⁸⁵ 云々¹⁸⁶ 之處者¹⁸⁷ 云々¹⁸⁸ 之處者¹⁸⁹ 云々¹⁹⁰ 之處者¹⁹¹ 云々¹⁹² 之處者¹⁹³ 云々¹⁹⁴ 之處者¹⁹⁵ 云々¹⁹⁶ 之處者¹⁹⁷ 云々¹⁹⁸ 之處者¹⁹⁹ 云々²⁰⁰ 之處者²⁰¹ 云々²⁰² 之處者²⁰³ 云々²⁰⁴ 之處者²⁰⁵ 云々²⁰⁶ 之處者²⁰⁷ 云々²⁰⁸ 之處者²⁰⁹ 云々²¹⁰ 之處者²¹¹ 云々²¹² 之處者²¹³ 云々²¹⁴ 之處者²¹⁵ 云々²¹⁶ 之處者²¹⁷ 云々²¹⁸ 之處者²¹⁹ 云々²²⁰ 之處者²²¹ 云々²²² 之處者²²³ 云々²²⁴ 之處者²²⁵ 云々²²⁶ 之處者²²⁷ 云々²²⁸ 之處者²²⁹ 云々²³⁰ 之處者²³¹ 云々²³² 之處者²³³ 云々²³⁴ 之處者²³⁵ 云々²³⁶ 之處者²³⁷ 云々²³⁸ 之處者²³⁹ 云々²⁴⁰ 之處者²⁴¹ 云々²⁴² 之處者²⁴³ 云々²⁴⁴ 之處者²⁴⁵ 云々²⁴⁶ 之處者²⁴⁷ 云々²⁴⁸ 之處者²⁴⁹ 云々²⁵⁰ 之處者²⁵¹ 云々²⁵² 之處者²⁵³ 云々²⁵⁴ 之處者²⁵⁵ 云々²⁵⁶ 之處者²⁵⁷ 云々²⁵⁸ 之處者²⁵⁹ 云々²⁶⁰ 之處者²⁶¹ 云々²⁶² 之處者²⁶³ 云々²⁶⁴ 之處者²⁶⁵ 云々²⁶⁶ 之處者²⁶⁷ 云々²⁶⁸ 之處者²⁶⁹ 云々²⁷⁰ 之處者²⁷¹ 云々²⁷² 之處者²⁷³ 云々²⁷⁴ 之處者²⁷⁵ 云々²⁷⁶ 之處者²⁷⁷ 云々²⁷⁸ 之處者²⁷⁹ 云々²⁸⁰ 之處者²⁸¹ 云々²⁸² 之處者²⁸³ 云々²⁸⁴ 之處者²⁸⁵ 云々²⁸⁶ 之處者²⁸⁷ 云々²⁸⁸ 之處者²⁸⁹ 云々²⁹⁰ 之處者²⁹¹ 云々²⁹² 之處者²⁹³ 云々²⁹⁴ 之處者²⁹⁵ 云々²⁹⁶ 之處者²⁹⁷ 云々²⁹⁸ 之處者²⁹⁹ 云々³⁰⁰ 之處者³⁰¹ 云々³⁰² 之處者³⁰³ 云々³⁰⁴ 之處者³⁰⁵ 云々³⁰⁶ 之處者³⁰⁷ 云々³⁰⁸ 之處者³⁰⁹ 云々³¹⁰ 之處者³¹¹ 云々³¹² 之處者³¹³ 云々³¹⁴ 之處者³¹⁵ 云々³¹⁶ 之處者³¹⁷ 云々³¹⁸ 之處者³¹⁹ 云々³²⁰ 之處者³²¹ 云々³²² 之處者³²³ 云々³²⁴ 之處者³²⁵ 云々³²⁶ 之處者³²⁷ 云々³²⁸ 之處者³²⁹ 云々³³⁰ 之處者³³¹ 云々³³² 之處者³³³ 云々³³⁴ 之處者³³⁵ 云々³³⁶ 之處者³³⁷ 云々³³⁸ 之處者³³⁹ 云々³⁴⁰ 之處者³⁴¹ 云々³⁴² 之處者³⁴³ 云々³⁴⁴ 之處者³⁴⁵ 云々³⁴⁶ 之處者³⁴⁷ 云々³⁴⁸ 之處者³⁴⁹ 云々³⁵⁰ 之處者³⁵¹ 云々³⁵² 之處者³⁵³ 云々³⁵⁴ 之處者³⁵⁵ 云々³⁵⁶ 之處者³⁵⁷ 云々³⁵⁸ 之處者³⁵⁹ 云々³⁶⁰ 之處者³⁶¹ 云々³⁶² 之處者³⁶³ 云々³⁶⁴ 之處者³⁶⁵ 云々³⁶⁶ 之處者³⁶⁷ 云々³⁶⁸ 之處者³⁶⁹ 云々³⁷⁰ 之處者³⁷¹ 云々³⁷² 之處者³⁷³ 云々³⁷⁴ 之處者³⁷⁵ 云々³⁷⁶ 之處者³⁷⁷ 云々³⁷⁸ 之處者³⁷⁹ 云々³⁸⁰ 之處者³⁸¹ 云々³⁸² 之處者³⁸³ 云々³⁸⁴ 之處者³⁸⁵ 云々³⁸⁶ 之處者³⁸⁷ 云々³⁸⁸ 之處者³⁸⁹ 云々³⁹⁰ 之處者³⁹¹ 云々³⁹² 之處者³⁹³ 云々³⁹⁴ 之處者³⁹⁵ 云々³⁹⁶ 之處者³⁹⁷ 云々³⁹⁸ 之處者³⁹⁹ 云々⁴⁰⁰ 之處者⁴⁰¹ 云々⁴⁰² 之處者⁴⁰³ 云々⁴⁰⁴ 之處者⁴⁰⁵ 云々⁴⁰⁶ 之處者⁴⁰⁷ 云々⁴⁰⁸ 之處者⁴⁰⁹ 云々⁴¹⁰ 之處者⁴¹¹ 云々⁴¹² 之處者⁴¹³ 云々⁴¹⁴ 之處者⁴¹⁵ 云々⁴¹⁶ 之處者⁴¹⁷ 云々⁴¹⁸ 之處者⁴¹⁹ 云々⁴²⁰ 之處者⁴²¹ 云々⁴²² 之處者⁴²³ 云々⁴²⁴ 之處者⁴²⁵ 云々⁴²⁶ 之處者⁴²⁷ 云々⁴²⁸ 之處者⁴²⁹ 云々⁴³⁰ 之處者⁴³¹ 云々⁴³² 之處者⁴³³ 云々⁴³⁴ 之處者⁴³⁵ 云々⁴³⁶ 之處者⁴³⁷ 云々⁴³⁸ 之處者⁴³⁹ 云々⁴⁴⁰ 之處者⁴⁴¹ 云々⁴⁴² 之處者⁴⁴³ 云々⁴⁴⁴ 之處者⁴⁴⁵ 云々⁴⁴⁶ 之處者⁴⁴⁷ 云々⁴⁴⁸ 之處者⁴⁴⁹ 云々⁴⁵⁰ 之處者⁴⁵¹ 云々⁴⁵² 之處者⁴⁵³ 云々⁴⁵⁴ 之處者⁴⁵⁵ 云々⁴⁵⁶ 之處者⁴⁵⁷ 云々⁴⁵⁸ 之處者⁴⁵⁹ 云々⁴⁶⁰ 之處者⁴⁶¹ 云々⁴⁶² 之處者⁴⁶³ 云々⁴⁶⁴ 之處者⁴⁶⁵ 云々⁴⁶⁶ 之處者⁴⁶⁷ 云々⁴⁶⁸ 之處者⁴⁶⁹ 云々⁴⁷⁰ 之處者⁴⁷¹ 云々⁴⁷² 之處者⁴⁷³ 云々⁴⁷⁴ 之處者⁴⁷⁵ 云々⁴⁷⁶ 之處者⁴⁷⁷ 云々⁴⁷⁸ 之處者⁴⁷⁹ 云々⁴⁷¹⁰ 之處者⁴⁷¹¹ 云々⁴⁷¹² 之處者⁴⁷¹³ 云々⁴⁷¹⁴ 之處者⁴⁷¹⁵ 云々⁴⁷¹⁶ 之處者⁴⁷¹⁷ 云々⁴⁷¹⁸ 之處者⁴⁷¹⁹ 云々⁴⁷²⁰ 之處者⁴⁷²¹ 云々⁴⁷²² 之處者⁴⁷²³ 云々⁴⁷²⁴ 之處者⁴⁷²⁵ 云々⁴⁷²⁶ 之處者⁴⁷²⁷ 云々⁴⁷²⁸ 之處者⁴⁷²⁹ 云々⁴⁷³⁰ 之處者⁴⁷³¹ 云々⁴⁷³² 之處者⁴⁷³³ 云々⁴⁷³⁴ 之處者⁴⁷³⁵ 云々⁴⁷³⁶ 之處者⁴⁷³⁷ 云々⁴⁷³⁸ 之處者⁴⁷³⁹ 云々⁴⁷⁴⁰ 之處者⁴⁷⁴¹ 云々⁴⁷⁴² 之處者⁴⁷⁴³ 云々⁴⁷⁴⁴ 之處者⁴⁷⁴⁵ 云々⁴⁷⁴⁶ 之處者⁴⁷⁴⁷ 云々⁴⁷⁴⁸ 之處者⁴⁷⁴⁹ 云々⁴⁷⁵⁰ 之處者⁴⁷⁵¹ 云々⁴⁷⁵² 之處者⁴⁷⁵³ 云々⁴⁷⁵⁴ 之處者⁴⁷⁵⁵ 云々⁴⁷⁵⁶ 之處者⁴⁷⁵⁷ 云々⁴⁷⁵⁸ 之處者⁴⁷⁵⁹ 云々⁴⁷⁶⁰ 之處者⁴⁷⁶¹ 云々⁴⁷⁶² 之處者⁴⁷⁶³ 云々⁴⁷⁶⁴ 之處者⁴⁷⁶⁵ 云々⁴⁷⁶⁶ 之處者⁴⁷⁶⁷ 云々⁴⁷⁶⁸ 之處者⁴⁷⁶⁹ 云々⁴⁷⁷⁰ 之處者⁴⁷⁷¹ 云々⁴⁷⁷² 之處者⁴⁷⁷³ 云々⁴⁷⁷⁴ 之處者⁴⁷⁷⁵ 云々⁴⁷⁷⁶ 之處者⁴⁷⁷⁷ 云々⁴⁷⁷⁸ 之處者⁴⁷⁷⁹ 云々⁴⁷⁷¹⁰ 之處者⁴⁷⁷¹¹ 云々⁴⁷⁷¹² 之處者⁴⁷⁷¹³ 云々⁴⁷⁷¹⁴ 之處者⁴⁷⁷¹⁵ 云々⁴⁷⁷¹⁶ 之處者⁴⁷⁷¹⁷ 云々⁴⁷⁷¹⁸ 之處者⁴⁷⁷¹⁹ 云々⁴⁷⁷²⁰ 之處者⁴⁷⁷²¹ 云々⁴⁷⁷²² 之處者⁴⁷⁷²³ 云々⁴⁷⁷²⁴ 之處者⁴⁷⁷²⁵ 云々⁴⁷⁷²⁶ 之處者⁴⁷⁷²⁷ 云々⁴⁷⁷²⁸ 之處者⁴⁷⁷²⁹ 云々⁴⁷⁷³⁰ 之處者⁴⁷⁷³¹ 云々⁴⁷⁷³² 之處者⁴⁷⁷³³ 云々⁴⁷⁷³⁴ 之處者⁴⁷⁷³⁵ 云々⁴⁷⁷³⁶ 之處者⁴⁷⁷³⁷ 云々⁴⁷⁷³⁸ 之處者⁴⁷⁷³⁹ 云々⁴⁷⁷⁴⁰ 之處者⁴⁷⁷⁴¹ 云々⁴⁷⁷⁴² 之處者⁴⁷⁷⁴³ 云々⁴⁷⁷⁴⁴ 之處者⁴⁷⁷⁴⁵ 云々⁴⁷⁷⁴⁶ 之處者⁴⁷⁷⁴⁷ 云々⁴⁷⁷⁴⁸ 之處者⁴⁷⁷⁴⁹ 云々⁴⁷⁷⁵⁰ 之處者⁴⁷⁷⁵¹ 云々⁴⁷⁷⁵² 之處者⁴⁷⁷⁵³ 云々⁴⁷⁷⁵⁴ 之處者⁴⁷⁷⁵⁵ 云々⁴⁷⁷⁵⁶ 之處者⁴⁷⁷⁵⁷ 云々⁴⁷⁷⁵⁸ 之處者⁴⁷⁷⁵⁹ 云々⁴⁷⁷⁶⁰ 之處者⁴⁷⁷⁶¹ 云々⁴⁷⁷⁶² 之處者⁴⁷⁷⁶³ 云々⁴⁷⁷⁶⁴ 之處者⁴⁷⁷⁶⁵ 云々⁴⁷⁷⁶⁶ 之處者⁴⁷⁷⁶⁷ 云々⁴⁷⁷⁶⁸ 之處者⁴⁷⁷⁶⁹ 云々⁴⁷⁷⁷⁰ 之處者⁴⁷⁷⁷¹ 云々⁴⁷⁷⁷² 之處者⁴⁷⁷⁷³ 云々⁴⁷⁷⁷⁴ 之處者⁴⁷⁷⁷⁵ 云々⁴⁷⁷⁷⁶ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷ 云々⁴⁷⁷⁷⁸ 之處者⁴⁷⁷⁷⁹ 云々⁴⁷⁷⁷¹⁰ 之處者⁴⁷⁷⁷¹¹ 云々⁴⁷⁷⁷¹² 之處者⁴⁷⁷⁷¹³ 云々⁴⁷⁷⁷¹⁴ 之處者⁴⁷⁷⁷¹⁵ 云々⁴⁷⁷⁷¹⁶ 之處者⁴⁷⁷⁷¹⁷ 云々⁴⁷⁷⁷¹⁸ 之處者⁴⁷⁷⁷¹⁹ 云々⁴⁷⁷⁷²⁰ 之處者⁴⁷⁷⁷²¹ 云々⁴⁷⁷⁷²² 之處者⁴⁷⁷⁷²³ 云々⁴⁷⁷⁷²⁴ 之處者⁴⁷⁷⁷²⁵ 云々⁴⁷⁷⁷²⁶ 之處者⁴⁷⁷⁷²⁷ 云々⁴⁷⁷⁷²⁸ 之處者⁴⁷⁷⁷²⁹ 云々⁴⁷⁷⁷³⁰ 之處者⁴⁷⁷⁷³¹ 云々⁴⁷⁷⁷³² 之處者⁴⁷⁷⁷³³ 云々⁴⁷⁷⁷³⁴ 之處者⁴⁷⁷⁷³⁵ 云々⁴⁷⁷⁷³⁶ 之處者⁴⁷⁷⁷³⁷ 云々⁴⁷⁷⁷³⁸ 之處者⁴⁷⁷⁷³⁹ 云々⁴⁷⁷⁷⁴⁰ 之處者⁴⁷⁷⁷⁴¹ 云々⁴⁷⁷⁷⁴² 之處者⁴⁷⁷⁷⁴³ 云々⁴⁷⁷⁷⁴⁴ 之處者⁴⁷⁷⁷⁴⁵ 云々⁴⁷⁷⁷⁴⁶ 之處者⁴⁷⁷⁷⁴⁷ 云々⁴⁷⁷⁷⁴⁸ 之處者⁴⁷⁷⁷⁴⁹ 云々⁴⁷⁷⁷⁵⁰ 之處者⁴⁷⁷⁷⁵¹ 云々⁴⁷⁷⁷⁵² 之處者⁴⁷⁷⁷⁵³ 云々⁴⁷⁷⁷⁵⁴ 之處者⁴⁷⁷⁷⁵⁵ 云々⁴⁷⁷⁷⁵⁶ 之處者⁴⁷⁷⁷⁵⁷ 云々⁴⁷⁷⁷⁵⁸ 之處者⁴⁷⁷⁷⁵⁹ 云々⁴⁷⁷⁷⁶⁰ 之處者⁴⁷⁷⁷⁶¹ 云々⁴⁷⁷⁷⁶² 之處者⁴⁷⁷⁷⁶³ 云々⁴⁷⁷⁷⁶⁴ 之處者⁴⁷⁷⁷⁶⁵ 云々⁴⁷⁷⁷⁶⁶ 之處者⁴⁷⁷⁷⁶⁷ 云々⁴⁷⁷⁷⁶⁸ 之處者⁴⁷⁷⁷⁶⁹ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁰ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷¹ 云々⁴⁷⁷⁷⁷² 之處者⁴⁷⁷⁷⁷³ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁴ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁵ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁶ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁸ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁹ 云々⁴⁷⁷⁷⁷¹⁰ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷¹¹ 云々⁴⁷⁷⁷⁷¹² 之處者⁴⁷⁷⁷⁷¹³ 云々⁴⁷⁷⁷⁷¹⁴ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷¹⁵ 云々⁴⁷⁷⁷⁷¹⁶ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷¹⁷ 云々⁴⁷⁷⁷⁷¹⁸ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷¹⁹ 云々⁴⁷⁷⁷⁷²⁰ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷²¹ 云々⁴⁷⁷⁷⁷²² 之處者⁴⁷⁷⁷⁷²³ 云々⁴⁷⁷⁷⁷²⁴ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷²⁵ 云々⁴⁷⁷⁷⁷²⁶ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷²⁷ 云々⁴⁷⁷⁷⁷²⁸ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷²⁹ 云々⁴⁷⁷⁷⁷³⁰ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷³¹ 云々⁴⁷⁷⁷⁷³² 之處者⁴⁷⁷⁷⁷³³ 云々⁴⁷⁷⁷⁷³⁴ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷³⁵ 云々⁴⁷⁷⁷⁷³⁶ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷³⁷ 云々⁴⁷⁷⁷⁷³⁸ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷³⁹ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁴⁰ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁴¹ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁴² 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁴³ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁴⁴ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁴⁵ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁴⁶ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁴⁷ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁴⁸ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁴⁹ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁵⁰ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁵¹ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁵² 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁵³ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁵⁴ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁵⁵ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁵⁶ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁵⁷ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁵⁸ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁵⁹ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁶⁰ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁶¹ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁶² 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁶³ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁶⁴ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁶⁵ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁶⁶ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁶⁷ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁶⁸ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁶⁹ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁰ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷¹ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷² 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷³ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁴ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁵ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁶ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁸ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁹ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷¹⁰ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷¹¹ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷¹² 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷¹³ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷¹⁴ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷¹⁵ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷¹⁶ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷¹⁷ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷¹⁸ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷¹⁹ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷²⁰ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷²¹ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷²² 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷²³ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷²⁴ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷²⁵ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷²⁶ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷²⁷ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷²⁸ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷²⁹ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷³⁰ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷³¹ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷³² 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷³³ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷³⁴ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷³⁵ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷³⁶ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷³⁷ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷³⁸ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷³⁹ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁴⁰ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁴¹ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁴² 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁴³ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁴⁴ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁴⁵ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁴⁶ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁴⁷ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁴⁸ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁴⁹ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁵⁰ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁵¹ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁵² 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁵³ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁵⁴ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁵⁵ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁵⁶ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁵⁷ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁵⁸ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁵⁹ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁶⁰ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁶¹ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁶² 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁶³ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁶⁴ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁶⁵ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁶⁶ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁶⁷ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁶⁸ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁶⁹ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷⁰ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷¹ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷² 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷³ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷⁴ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷⁵ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷⁶ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷⁷ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷⁸ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷⁹ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷¹⁰ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷¹¹ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷¹² 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷¹³ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷¹⁴ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷¹⁵ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷¹⁶ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷¹⁷ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷¹⁸ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷¹⁹ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷²⁰ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷²¹ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷²² 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷²³ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷²⁴ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷²⁵ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷²⁶ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷²⁷ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷²⁸ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷²⁹ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷³⁰ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷³¹ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷³² 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷³³ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷³⁴ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷³⁵ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷³⁶ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷³⁷ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷³⁸ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷³⁹ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷⁴⁰ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷⁴¹ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷⁴² 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷⁴³ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷⁴⁴ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷⁴⁵ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷⁴⁶ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷⁴⁷ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷⁴⁸ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷⁴⁹ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷⁵⁰ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷⁵¹ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷⁵² 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷⁵³ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷⁵⁴ 之處者⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷⁵⁵ 云々⁴⁷⁷⁷⁷⁷⁷⁵⁶

(三) 故國ヨリ一人ヲ公使トシテ或一國ニ派遣スルコトヲ得ルヤ、例へハ何某
ヲ日本ニテモ英國駐在公使ト爲オト同時ニ支那モ同人ヲ支那ノ英國駐在公使
タルシムルコトヲ得ルヤト云フカ如シ此場合ニ各國ハ相手國ニ對シテ各利害
關係ヲ異ニスルカ故ニ異ナレル利害關係ヲ併セラ代表スルコト能ハサルヲ以
テ本問ハ之ヲ否定セザルヘカラズ

(四) 如何ナル階級ノ公使ヲ公使トシテ派遣スルキヤ此問題ハ詳細ノ説明ハ
之ヲ止メ現時ノ慣例ニ付ク一言スベシ現時ニ在リテハ王的榮譽ヲ受クル國家
的ノ公使ニハ属之アリ例へニ媾和談判ヲ爲ズニ當リ數人ノ公使ヲ派遣スルコ
トアルカ如シ此間又ハ公使ヲ派遣セラモノナシト雖モ一時

ニ非サレハ大使ヲ授受スルコト能ハス即チ帝國王國大共和國等ニ非サレハ太
使ヲ授受スルヲ得ス其他ハ皆相互的ニシテ甲國ヨリ全權大使ヲ派遣スル者乙
國ハ甲國ニ對シテ又全權大使ヲ派遣スルカ如ク各階級ヲ通シテ同一ナリ故ニ
選羅及ヒ墨西哥ヨリ日本ニ辦理公使ヲ派遣スルカ故ニ日本モ二國ニ對シテ辦
理公使ヲ派遣シ置キ其他ノ諸國トサ特命全權公使ヲ互に授受セリ然ヒトモ是
レ慣例上定マレル事ニシテ國際法上ノ原則ニ非不故ニ各國ハ各自之モ之モ
從ハナルヘカラナルモノニ非ス左レハ現時佛國ヨリ瑞西共和國ニ全權大使ヲ
派遣スレトモ瑞西ヨリ佛國ニハ公使ヲ派遣シ又英國ハ瑞西ニ公使ヲ派遣スト
モ瑞西ハ英國ニ總領事ヲ派遣セリ

第四款 公使ノ職務

ヲ認メラルムモノナリ故ニ公使ベ信認狀ヲ所持シ其他全權狀(常駐公使ニハナ
シ訓令書全權狀ノ類似ニシテ之ニ公然人書類ト書類トノリ)及ヒ旅行券
ヲ所持スルモノナリ本論第三章第一節ニ於テ公使ハ又自國人民ノ在國地圖ニ有
公使ハ公使タル地位ヲ有スルヨリ種種ノ特權ヲ有スルモノハレバ此特權ハ
自國ニ在ル間ハ勿論第三國ニ於テモ有スルコトナク唯駐在國ニ於テノミ之ヲ
受タルモノナリ然レトモ駐在國ニ赴クトキハ其國境ニ入りタル時ヨリ此特權
ヲ受タルモノナリカ又ハ元首ニ謁見シタル時ヨリ此特權ヲ受タルモノナリカ
ハ問題ナリ理論ヨリ言フトキハ公使タルノ地位ハ駐在國元首ニ信認狀ヲ持
呈シタル時ヨリ公使タルノ職務ヲ行フコト能ガス故ノ以テ單井國境ニ入
ルカ故ニ其以前ニハ公使タルノ待遇ヲ受タルモノハシテ大ニ雙方ニ不利益バツ以テ
リタルノミニテハ未タ以テ公使タルノ地位特權ヲ受タルコトナリト論スヘキ
ナリ然レトモ若シ此ノ如ク信認狀持呈前ニ公使タルノ地位ナシトセニ謁見ニ
際シテモ亦公使タルノ待遇ヲ受タルコト能ハスシテ大ニ雙方ニ不利益バツ以テ
慣例上駐在國ノ國境ニ入りタル時モ公使タルノ地位ヲ有スル者トシ登國實

際ノ慣例ハ信認狀ノ唐本ヲ駐在國外務省ニ交付シ其時ヨリ公使タルノ地位ヲ有スルコトセリ而シテ公使タルノ地位ハ一時或事件ノ爲メニ派遣スル公使タルト常駐ノ公使タルトニ差異ナシ均シタ公使タルノ特權ヲ有スルモノナリ。公使ハ之ヲ儀式上ノ公使ト職務上ノ公使トニ區別スルコトヲ得前者ハ例ヘム出生死亡王位繼承勳章其他ノ贈與謝罪等ノ爲メニ派遣セラスル公使ヲ謂ヒ後者ハ之ヲ分チテ左ノ二ドス種類有スル。一、公使ハ其全權狀ノ内容ニ因リテ定期而シテ其職務並其事件ヲ完了ト共ニ終ルモノナリ。二、公使ハ其全權狀ノ内容ニ因リテ定期而シテ其職務並其事件ヲ完了ト共ニ終ル事項ヲ視察シテ之ヲ本國ニ報セサルヘカラス。公使ハ又自國人民ノ駐在國ニ在ル者ノ爲メニ利益ヲ圖テアルベカラス又自國ノ公益ニ關スルモノナルトキハ自國人民ノ外國ニ在ル者ニ向ビテ保護ヲ與フルゴトニ要ス。是當其發動セハセ

第五款 公使ノ特權

公使ハ其特權ハ之ヲ分チテ四トス遇ニ有スル者モ其特權ノ第一也不可侵權ト。公使ノ公使ハ駐在國ト本國トノ間ニ修好ヲ圖ルヲ目的トスヘタ又公使ハ其地ノ事情ヲ視察シテ之ヲ本國ニ報セサルヘカラス。公使ハ又自國ノ公益ニ關スルモノナルトキハ自國人民ノ外國ニ在ル者ニ向ビテ保護ヲ與フルゴトニ要ス。是當其發動セハセ

公使ノ公使ハ其治外法權ト之ヲ混同スルカナス抑モ治外法權トハ其駐在國ノ國法ニ服從セナル。其權利ヲ謂フ之ニ反シテ不可侵權即ち其駐在國莫リ尊重セラレ特別ノ保護ヲ受クル積極的ノ權利ヲ謂フ即チ公使ノ不可侵權トハ公使ノ有スル不可侵權ハ其職務ヲ執行スルニ必要ナルニ因リ駐在地之國家カ特別ニ付與スル權利ナリ此ノ如ク治外法權ト不可侵權ト不全然其性質ヲ異ニスル權ナガルコトノ明カナルニ拘ハラス英米ノ國際法學者ノ如キハ不可侵權ハ治外法權ノ餘權ナリト主張シ其他或一二ノ學者モ亦之ヲ唱道セリ又之ニ反對スル學說ハ治外法權不可侵權ノ餘派ナリト主張セリ獨逸ノマクテンス氏ノ如キハ其一人ナリ右ノ如ク學者間二者ヲ混同シテ説明スル所アレトモ予輩前無闇然タルカ如キ判然タル區別ノ存スル以上ハ二者決シテ同一ニ非ケルコトヲ信スル

ナリ故子國我々ハ國際も吾々ハ國上ニ皆矣ハ國ニニ其文メシカニテ皆ベ
公使ニ駐在國ニ駐劄中ニ當然此不可侵權ヲ享有スルモノナリ雖尙公使自ラ
其不可侵ヲ受容シコト又得ナル行爲ヲ爲シタル場合ニ於テ久之モ拋棄シタク
モトト看做オルヘシ故ニ若シ公使ニ斯ル所爲アル場合ニ於テハ此不可侵
權ヲ主張スルコトヲ得ナルオリ國籍茲學者ハ取テハ小西義和、吉野弘勲、前井
次ニ駐在國ハ駐劄スル公使ニ對シ侮辱ヲ加ヘ然者ガ特英國法ヲ以テ罰スヘ
キ旨ヲ規定スルモノアリ即ヒ偏見及ヒ佛蘭西ス如キ是ナリハ前井ニ就キ及ヒ
第二章治外法權ノ範疇ニ至ニテ實事相ヘ而既ニ取テ公使ノ不可侵權
公使ノ治外法權ニ付テハ嘗テ治外法權ノ大體ヲ説明スルニ當リ併セテ之カ説
明ヲ爲シタルヲ以テ重テア茲ニ述フルコトヲ止メ唯一言ヲ附加シテ本項ヲ了
ラントス

此治外法權ハ單ニ外交官ノミニ限リ之ヲ享有スルモノニ非シテ他ニ之ヲ享
有スル者アルコトはナリ例ハ元首ノ如キ亦此特權ヲ享有スヘシ

第三 裁判權

公使カ自ラ裁判ヲ爲ス權限ハ唯單ニ其公使館員ニ對シテノミ之ヲ有スル
過キサルナリ然レトモ其館員ニ對スル裁判ナリト雖モ其駐在國ノ秩序ニ違反
スル場合ニ於テハ之カ裁判ヲ爲ス權限ヲ行使スルヲ得ス換言スレハ駐在國ノ
法律ニ違反セサル範圍内ニ於テハ該裁判スル權限ヲ有スルニ過キス隨テ公使
ノ裁判權ハ絕對的ノモハニ非スシテ制限ヲ受クベキモシタルヤ明カ大矣哉
左ニ公使ノ裁判權ニ對スル制限ヲ説明スヘシイテ然者公使ニ對スル民事上
公使ノ裁判權ハ單ニ民事上ノ事件ニ對スルヌミニシテ決シテ刑事上ノ事件
付テハ之カ裁判ヲ爲ス權限又有セサルモナカリ但刑事上ノ事件ト雖モ第廿八
手續ハ之ヲ爲スヨトヲ得ルモノトス其第一ノ手續大ニ裁判ヲ爲スニ至ル者
ノ手續例ハ取調ヲ爲スカ如キ本國ニ送還スルカ如キコトヲ謂フ故ニ原則ト
シテハ公使ハ刑事上ノ事件ニ對スル裁判權又有セサル事スナリ也
公使ハ民事上ノ事件ニ付テハ裁判權又有ス然旨ハ前無述ヘアリト雖尙少ホ
此民事上ノ事件ニ付テモ總之ハ裁判權又有斯ル事ニ非ス隨テ之ヲ分ナキ說
明スルヲ要ス即ち「任意上ニ裁判二強制上ニ裁判」是ナリ公使ハ上ニ掲タル

者中任意上ノ裁判ニ對シカノミ之カ審理裁判ヲ爲ヨリトテ得ル生ノ事シテ例
ヒ又婚姻離縁事件ノ如キ又協議上ノ裁判ノ如キハ之ヲ爲シテト之得ムシ然
ニ東洋諸國ニ駐在スル歐羅巴諸國ノ公使ハ上述ノタガ制限ニ拘ムラ誠總ナシ
裁判權ヲ有スルモノトス是レ一般原則ニ對スル例外ア成スモナリ
第四款 信教自由權ニ就キ本國ニ就基ニシテ或國モ小民猶ニ
信教上ノ自由ヲ有スル權利ニ付テハ憲法ヲ以テ宗教ノ自由ヲ保障シタル國家
ニ對シテハ特ニ之ヲ以テ公使ヲ享有スル特權ナリトテ説明スル要見ス
ト難モ往往未タ宗教ノ自由ヲ認メサル國家アリ斯ル場合ニ於テ公使カ其國家
ニ駐劄スルトキハ當然此特權ヲ享有スルモノトス然レトモ今ヤ各國此考ニ付
ケ大ナル進歩ヲ爲シタルヲ以テ均シタル宗教上ノ自由ヲ認ムルニ至ルノ期近キ
ムアルヘキラ信スルト以テ特ニ此項ヲ必要トセカルニ至ルナ知ルヘ解ナリ動
ハシム音ニ就キハ「文書號號」又「會議」等之謂也其餘大抵ノ書面ノ傳言大抵ノ報道圖
畫ナシヤハセド也

第六款 公使ノ地位ノ消滅

第三章 駐在國ヲ去ル場合此場合ハ種種ノ原因ニ由リ又公使タルノ地位ハ消

- 滅スルモノナレトモ大體左ノ三因ニ歸スルナリ論述發表、特點モ前節スル
 (一) 本國ヨリ駐在ヲ免セラレタル場合此場合ハ國法上於テ公使タル地位
ヲ失フモソニ非ス唯駐在ヲ免セラレタルニ遇キナルカ故ニ駐在國ヲ引上ケサ
ルヘカラサルノミ然一事ニ付キ本國が當時ニ就基ニ目前又實不敷用國モ公使
 (二) 駐在ヲ拒絶セラレタル場合此場合公使ハ本國駐在國トノ平和親好ヲ修ムルコトヲ目的
トシテ派遣セラレタルモノナルカ故ニ此狀態ヲ變スルトキハ公使ヲ派遣謀ル
ノ必要ナキヲ以テ當然公使タルノ權利ナキモノナリ固ニ然ニ公使ハ其地位
以上ノ場合ニ於テ消滅ノ原因發生スルトキハ直チニ公使タルノ地位ヲ失フヘ
キ理論ナレトモ相當ノ期間内ニ駐在國ヲ退去スルアリテ公使タルノ特權ヲ付與
スルコトヲ穩當トシタル各國ハ今日皆此方法ヲ採ルコトヲ認するべ事ヨリセラ
 第二 國家ノ滅亡ニ自國ノ滅亡及ヒ駐在國ノ滅亡ニ因リテ公使ハ當然其地位
ヲ失フモノトス即チ自國ノ消滅ハ國際主體ノ消滅ニシテ國家カ滅亡シタルニ
獨リ代表機關ノミ存在スル理由ナク又駐在國ノ消滅ハ公使ハ國家ノ政治上ノ

代表者トシテ相手國ニ駐在スルモノナビカ相手國ナキニ獨リ公使ノ駐在スル告ナクレハナリ。此を自國又言甚外國事務の當初より國事に就き、其後モ亦國家ノ元首ノ地位ノ變更、是レ亦自國及ヒ駐在國ノ元首ノ變更ナリ。元來公使カ如クナレトモ公使カ國家ヲ代表シテ相手國ニ駐在スル主ふ國家ヨリモ現在ノ國家ノ元首ノ信認ニ因リテ相手國現在ノ元首ノ元首タル間ニ限リ派遣シタルモノナリ。故ニ雙方又ヘ一方ノ元首ノ地位ノ變更ニ因リテ公使ノ地位亦消滅スルモノトス。然レトモ後繼ノ元首カ更ニ信認狀ヲ交付スルハ直チニ新元首ニ又ハ新元首ヨリノ公使トシタル地位ヲ有スルハ論ヲ俟タサルナリ。

第四 駐在國ニ於テ或職務ヲ終リタル場合、此場合ハ一時のノ公使ニ限ルモノニシテ此公使ハ或一事ニ付テノ公使ナルカ故ニ目的ノ成不成ニ因リテ公使ノ地位ハ消滅スル。ヨメナリ。

第五 本公使ノ死亡、別ニ説明スルノ要ナシ。唯茲ニ少シ説明セサム。カラサルハ公使ノ死亡ニ因リテ公使ノ有シタル財產、其家族從者ノ特權ヲモ消滅スル。

- (一) 財產。公使ノ死亡ニ因リ他人ニ其財產カ移轉シタル後ニ於テハ論ナシト雖モ遺產カ未タ何人ニモ相續セラレタル間ハ治外法權ヲ受クヘキヤ古代ニ在リテハ主權萬能ノ思想ヨリシテ所有者死亡スルトキハ其財產ハ國有ニ歸スルモノトセリ。即チ相續以前ニ於テ既ニ國有ト爲ルナリ。然ルニ近世モ至リテハ此法理ハ認メラレタルニ至リ。今日ニ於テハ便宜上相續人ノ手本歸スルは至ルマテハ治外法權ヲ與フルモノトセリ。成學者ハ曰ク財產カ人ノ死亡ニ因リテ相續セラレタル間ハ一ノ財團法人ナルヲ以テ公使ノ有シタル財產ム公使ノ有スル特權ト同一ノ特權ヲ受クルモノナリト我輩ハ此理由ニ因リテ公使ノ死後其財產ニ治外法權ヲ與フルノ不當ナルフ信ス。
- (二) 家族。公使ノ家族カ特權ヲ有スルハ公使カ特權ヲ有スルヲ以テナリ。然ニ主タル公使カ消滅シタルニ從タル家族ニ此特權アル理由ナシ然レトモ便宜上相當ノ期間ヲ定メテ本國ニ歸ルカアホシ此特權ヲ與フルカア。普羅難民ニ混合從者、是レ亦同一ナリ。

第七款 一部外交官
政府ハ國家ノ消滅ニ非サル故ニ公使ノ消滅原因ニ非ス實例ハ昔佛戰爭ノ場合ニ一時佛國カ無政府タシカ如キ又明治前々我國ノ如斯是ナリ然モ不外對外宣戰書或其外傳文書及公使之公使外傳文書也

一部外交官ハ非サル者ナレトモ之ニ外交官タルノ待遇ヲ與フダモノノナリ一部主權國ニ於テモ上主權國ヨリ何等ノ制限ヲ受ケヌシテ外國並交際ヲ爲スドキ又全部外交官ナリ又本國ヨリ外交官トシテ派遣セラルモ相手國ニ於テ之ヲ公ノ公使トシテ待遇セラルコトアリ例ハ秘密條約又締結スル爲ジニ派遣セラル者ノ如キ是ナリ又本國ノ外國ニ派遣セラルモ外交官タラオル者アリ例ヘハ中國ノ逃亡者カ乙國ニ在ルヨキ其舉動ヲ探知セシカ爲特ニ甲國ヨリ乙國ニ派遣シタル使者ノ如シ又一國元首ノ私ノ使者ナシラ外國ニ派遣セラル者ノ如キ又固

卷之三

馬鹿代表シテ外國人派遣モナル者ノ如キモ之ノ國ナカニ
國際會議ノ事務所員ナ代表者第一、政治上ノ代表者ニ非ナル事ト第二、多ナル事務所所
在国人(本國人)ナルコト第三、萬國ノ利益ヲ保護スル者ナルコトノ理由ニ因リテ
外交官ニ非ナルコト明カナリ。斯ミニタル事務所所員ノ國内執事、職事、領事、貿易、通商、財政等
國務公事ナリ。第三節 領事 第一 次領事
第一款 總論

外國ニ於テ本国ノ經濟上ノ利益ヲ保護スル機關ナリ故ニ公使ト領事トノ差異ヲ舉クレハ左ノ如シニシテモ可也。併ヘニシテ、

(一) 公使ノ授受ハ國家ノ國際法上の權利ナリトモ領事ノ授受以現在ノ狀態ニ於テ條約國相互的ノ權義ナリテ、立場並ニ而事變變乎實圖。

(二) 常駐公使ハ一國ヨリ或一國ニ數人派遣スル例ナリモ領事ハ然ニスニ又

(三) 公使ハ政治上ノ代表者ナビトモ領事ハ經濟上ノ利益ヲ保護スル代表者ナカリ則事變變乎實圖。

第二款 領事ノ種類

國際公法上ニ於ケル領事ノ種類ハ國內法上ノ領事ノ種類ト異ナレリ茲ニ述ヘシトスル領事ノ種類、國際公法上ニ於ケルモノニシテ之ヲ區別シテ大凡二ト爲ス。本國人で、或は其國人、財主、商人又は船主等、國籍有無に拘らず、領事官任命領事及非任命領事。任命領事ハ本國人官吏ニシテ、外國人駐在領事本國ノ經濟上ノ利益ヲ保護スルモノナリ。故ニ官吏登用法ニ依リテ採用セラ

アレハ足ノモノニシテ其場所ヲ通過セントスルハ實際拿捕セラルノ危險アル兵備アヒバ可ナムモノトス此故ニ封鎖ヲ行セタル海岸又情況潮流其他ノ事情ニ依リ軍艦ハ必シモ港ニ近ク在留スルノ必要ナク「クリミヤ」戰爭中英國カ「ツガ港ヲ封鎖シタルハ同港ヨリ百二十哩ヲ隔タル」ラオモルヲト海航ニ軍艦一般ヲ置キテ之ヲ實行シタルハ其一例ナリ又封鎖ヲ有力ト爲ス爲タニハ場所ニ依リ其港口ニ對シ陸上ヨリノ砲擊ヲ以テ軍艦ノ效力ヲ援ケ得ヘク或ハ港口ニ障害物ヲ沈没シテ封鎖之效果ヲ確メ得ヘシ千八百六十一年米國カ「テ・ヤ・レ・ス・ト・ン」及ヒツ・バンナ港ニ封鎖ヲ行ヒタルニ當リ船舶ヲ港口ニ沈メタルハ其一例ナリ又封鎖ハ其場所ニ對シ中立國ノ商船ハ勿論軍艦ノ出入ヲ禁スルヲ通則トシ海上ノ交通ニ關シ他國一般ニ對シ重大ナル影響ヲ生スルヲ以テ其封鎖ヲ行フハ交戰國主權ノ行使ニシテ政府ノ直接ナル命令ニ依ルカ又ハ明示書クハ默示ニテ之ヲ行フ權力ヲ委任セラレタル者ニ於テ甫メテ實行シ得ヘク海軍司令官ハ固ヨリ其職權内ニ於テ封鎖ヲ實行シ得ヘシト雖モ本國ヲ距ルコト達カラナルカ其他政府ヨリシテ特別ノ訓令ヲ受ケ得ヘキ場合ニ於テハ其訓令

ヲ得テ之ヲ行フベハク若シ作戦ノ必要上蒙メ訓令ヲ得サルトキハ國家ハ其行爲ヲ追認スヘタ而シテ封鎖ハ交戦國カ其軍艦ヲ撤去シ又ハ封鎖ヲ行ヒ居ル軍艦カ敵國人ハメニ擊退セラレバトキハ效力ヲ失ヒ更ニ又其場所ヲ封鎖ヲ行ヒ居ル交戦國ノ軍隊カ占領スルトキハ之ト同時ニ敵國權力ノ下ニ在ル土地ニ非サルニ至ルカ故ニ封鎖ハ效力ヲ終了スルモ又ス強制要塞を當面取扱夫ニ付シテ第三款 封鎖ニ關スル制裁

第三

其事實ヲ知了スルモノト看做シ之ニ反證ヲ許ササレトモ香港外ヨリシテ港内ニ入ラントスル船舶ニ關シテハ英米兩國ニ於テ事實上ノ知了ト推定上ノ知了トヲ區別シ事實上ノ知了ト云フハ船舶カ其封鎖ノ場所ニ近クニ當リテ封鎖ヲ行ヒ居ル軍艦ヨリシテ封鎖ノ存在ヲ告知セラレ其船舶ノ航海簿ニ記入ヲ受ケ將來ニ向ヒテ之ヲ破ラナルヘキ宣告ヲ得タル後同一船舶カ其封鎖ヲ破ラント企ナタルモノヲ罰シスル場所ニ於テ同船舶カ其封鎖ヲ知了シ居ルニトヲ事實上ノ知了トシテ之ニ反證ヲ許サヌ之ニ反シテ推定上ノ知了トハ封鎖ノ事實カ頭著ニシテ商業航海者社會一般ニ確ニ知レ涉ニタル場合ニ於テハ法廷ハ中立國船舶カ其封鎖ヲ知リタルモノト推測シ又本國政府ヨリ封鎖ノ事實ヲ中立國政府ニ通知シタルトキハ同政府ハ其人民ノ利益ヲ保護スル爲メ直チニ之ヲ一般人民ニ告知スヘキカ故ニ其通知ヲ爲シタルヨリ相當ノ時日後ハ其通知ヲ受ケタル中立國人民ハ同封鎖ヲ知了スルモノト看做スモニシテ斯ル場合ニ於テ中立國商船カ其封鎖ヲ破ラントスルニ當リ封鎖ノ事實ヲ知ラサシシトノ證明ヲ確實ニ爲ササル以上ハ總テ沒收セラルモノトス之ニ反シ弗開主義ニ於テ

ハ單ニ事實上ノ知丁ノミヲ認メ推定上人知丁ヲ許サシテ其理由士スル所ヘ
凡テ封鎖ハ諸種ノ原因ニ依リ何時ニテモ解除セラルカ故ニ中立國船舶ニ對
シテハ悉ク事實上ノ通告ヲ必要トシ交戦國ヨリ中立國政府ニ對スル通知ハ單
ニ好意ニ出テ其通知ノ有無ハ法律上何等ノ效力ナキモトスルニ在リ然レト
モ國際公法ノ法則トシテ封鎖ノ犯則ヲ組成スルニ付テハ單ニ船舶カ封鎖ヲ知
リ居タルコトヲ必要トシ如何ニシカ之ヲ知リタルヤハ間ア所ニ非ヌ又交通通
商ノ敏活ト爲リ來リタル今日ニ於テバ封鎖ノ事實ハ必スシモ各船舶カ封鎖ノ
場所ニ近クニ當リテ軍艦ヨリ通告ヲ受ケタルニ非ナビハ絕對的ニ之ヲ知ラツ
ルモノト看做スハ時勢ニ後レタル説ト云フヘキカ如シテ是處ニシテ軍艦
封鎖ヲ破ラントスル航海ヲモ不法トスルカ故ニ之ヲ破ラントスル目的ヲ以テ
同港ニ向ヒ出發スルヤ否キ成立シ交戦者ハ其船舶カ出發スルヤ否ヤ海上ニ於
テ之ヲ捕獲シ得ヘキモノトス此點ニ關シテ佛國主義ト英國主義ノ間ニ於ア瓦
ニ異ナリタル大ナル影響ヲ有ス即チ佛國主義ニ依ラハ其船舶カ軍艦ヨリ封鎖

ノ通告ヲ受ケサル以前ニ於テハ其港ニ近クモ其航海ヲ不法ト爲ササレトモ英
國主義ニ於テハ推定上ノ知丁ヲ許スカ故ニ封鎖ノ事實カ知レ涉リ居ルトキハ
其出發スルヤ直ニ拿捕シ反證ノ立タサルモノハ之ヲ處罰シ得ヘン而シテ凡
テ封鎖ハ其場所ト交通セントスルノ航海ヲ犯則オスルカ故ニ之ヲ破ラントノ
意思ヲ以テ出發スル時ニ成立シ同一航海中ハ繼續シ同船舶カ封鎖ヲ破リタルト
キハ歸航中ニ於テモ拿捕セラルベタ出發港ニ復歸スルニ於テ甫メナ消滅シ其
以後ニ於ケル無事ナル航海ニ於テハ前犯則ヲ故ヲ以テ處罰セラルコトナシ
但其犯則ナル航海中ト雖モ封鎖ヲ終了ト爲ルトキハ之ト同時ニ其犯則ヲ解除
シ又封鎖ヲ破ルノ目的ニテ航海中本國軍艦其他漁船等ノ爲メ避難ノ場合ニハ其積荷ニ變更ヲ
鎖終了ノ通知ヲ受ケタルトキハ縫合其通知ノ誤認ナル場合ニ於テモ罰セラル
ルコトナク又航海中船舶カ其目的ヲ改メテ別ノ航路ヲ取リタルトキハ之ト同
時ニ解除シ更ニ又天災風浪糧食缺乏等ノ爲メ避難ノ場合ニハ其積荷ニ變更ヲ
爲サナルヲ條件トシテ封鎖ノ港内ニ出入ル可ト得テ入港シ得ヘク又近來諸
國ハ條約ヲ以テ郵船ニ限リ港内ニ於テ商業ニ從事セラルノ條件ヲ以テ出入ル

許ナレ又交戦者ヘ封鎖ヲ實行ノ際港内ニ於ケル中立國商船ニ立退ノ猶豫ヲ與フルコト行ハレ其封鎖實施以前ノ積荷ハ之ヲ以テ出港ノ許スト雖モ其以後ニ搭載シタルモノハ総合前以テ買入ヒタルモノト雖モ之ヲ以テ出港スル能「ス」封鎖ノ犯則ニ對スル制裁ニ付キ第十八世紀ノ中頃迄ハ其人民ヲモ處刑シタルコトアレトモ今日ニ於テハ更ニ船舶ヲ沒收スルニ止マルモノトス然レトモ同一船舶内ニ於ケル犯則者ニ屬スル財產ハ悉ク沒收ストノ原則ニ基キ若シ其犯則アル場合ニ於テ船舶所有者ニ屬スル物品ヲ搭載シ居タルトキヘ其搭載品ヲモ均シタ沒收シ又船長ハ荷主ノ代人ト看做サルヲ當然トスト雖モ其船舶カ出發以前ニ於テ到達地ノ封鎖ト爲リ居ル事實ノ明カルトキハ荷主モ之ヲ知了スルモノト看做ナレ総合船長カ航海中ニ方向ヲ變シテ之ニ向ヒタルトキト雖モ荷主ノ爲メニシタリトノ推測ニ依リ荷主ハ其事實ヲ知ラナルヨトヲ證明セザルヘカラスキニ承諾ハ及ばず然ニ被敵軍事實ヲ曉シ越リ思ひ難キ

第四節 戰時禁制品

第一款 戰時禁制品ノ性質
中立國人民ハ戰爭中交戦國双方ト如何ナル物品ト雖モ其商業ヲ爲シ能ハタルノ義務ナシ然レトモ交戦者ハ古來一般ニ認メラレタル權利トシテ戰闘ニ直接ニ使用セラレ且其物品ノ性質上戰闘ニ必要ナル物品ヲ敵國ニ輸入スル者アルトキハ之ヲ海上ニ於テ捕獲スルヲ得ヘク斯ル物品ヲ戰時禁制品ト稱ス此故ニ中立國人民カ戰時禁制品ヲ交戦國ニ對シテ賣却スルハ妨ナシト雖モ之ヲ運搬スルトキハ對手者タル他ノ一方ノ交戦國ニ依リ海上ノ捕獲ヲ受タルコトアルヘキ危險ヲ見ルモノトス之ヲスルニ戰時禁制品ノ犯則也(第一)中立國人民カ之ヲ賣却スルニ非シテ單ニ交戦國ニ運搬スルノ航海ニ限ラシテ公海又ハ中立國港内ニ在ル交戦國軍艦ニ供給スルモノナルトキ又ハ中立國ニ於ケル交戦國ノ軍艦ニ供

給スルモノナルトキハ均シタル時禁制品ノ犯則ヲ成立スルノミナラス中立國ニ向ヒテ航海スル場合ニ於テモ其航海ハ單ニ中立港ニ寄港スルニ過キシテ實際其搭載品ヲ交戰國又ハ交戰者ニ引渡スヲ目的トスルトキハ連續航海ノ法則ニ依リ犯則ト爲ルモノトス(第三戰時禁制品ノ犯則ハ交戰者ナル到達先ニ向ヒテ船舶カ同物品ヲ積込ミ出發スルヤ否キ成立シ其運搬ノ航海中對敵國之ヲ捕獲シ得ヘシト雖モ其物品ヲ到達先ニ引渡シタルト同時ニ解除ト爲ルモノトス何トナレハ元來戰時禁制品ヲ交戰者ニ運輸スルハ對敵國ニ於テ之ヲ捕獲シ得ルノ權利アルニ止マリ中立國人民カ其捕獲ノ危險ヲ冒シテ其物品ヲ賣却スルコトハ爲スヘカラサルニ非サルヲ以テナリ加之其運搬ノ航海中到達地カ中立港ト變シタルトキ又ハ敵國ニ降服シ若クハ割譲其他ニ由リテ中立地下爲ルトキハ之ト同時ニ其犯則ノ終了スルキ勿論ナリ
連續航海ノ法則トハ「千七百五十六年戰爭ノ法則」ヨリ發生シ千七百五十六年英佛戰爭中佛國ハ殖民地貿易ヲ和蘭國ノ商船ニ許可シタルニ當時殖民地貿易ハ各本國ニ於テ之ヲ獨占シタルヲ以テ平時ニ於テ敵國ニ固有ノ商業ニ從事スル

者ハ敵人ト看做ストノ理由ヲ以テ英國軍艦ハ其和蘭國商船ヲ捕獲シ法廷ハ之ヲ沒收シ其捕獲ヲ名ケテ千七百五十六年戰爭ノ法則ト稱ス此道理ハ千七百九十三年英國ト佛西兩國トノ戰爭ニ於テ米艦ニフセキス¹號カ西班牙國²バーセロナ³港ノ物產ヲ搭載シテ米國⁴ザレムニ寄港ノ上西國殖民地⁵ハバナ⁶港ニ向ヒタルニ英國軍艦ノ爲メ西國乃至米國間ノ航海中ニ於テ拿捕ラレ法廷ハ此航海ヲ西國本國⁷バーセロナ⁸港ト米國⁹ザレム¹⁰港間ノ航海及ヒ米國¹¹ザレム¹²港乃至ハバナ¹³港間ノ航海トノ二航海ト看ルヘカラストシ其理由トシノ同航海ヲ通シテノ目的ハ西國ヨリ其物產ヲ同國殖民地¹⁴ハバナ¹⁵港ニ運搬スベニ在ルカ故ニ其航海全體ヲ一航海ト看ルヘク隨テ右米國商船ハ戰爭中西國ニ固有ナル其殖民地貿易即チ敵國ノ商業ニ從事シタルモノトシテ其船舶ヲ沒收セリ此法則ヲ名ケテ連續航海ノ法則ト稱ス然レトモ現今歐洲諸國ハ本國ト其殖民地間ノ貿易ヲ平時ニ於テモ他國人民一般ニ許可シ居ルカ故ニ連續航海ト稱スル法則カ發生スルニ至リタル事由ハ今日消失シタリト雖モ此法則ハ封鎖及ヒ戰時禁制品ノ場合ニ適用シ中立國商船カ封鎖ヲ破ラントシ又ハ戰時禁制品ヲ交戰國ニ運搬セシ

トスルニ當リテハ同船舶カ其目的ヲ以テ出港スルベキ事各犯則ノ成立スルカ
故ニ縱令其商船ハ拿捕ノ危險ヲ避クルカ爲メ封鎖港附近ノ港ヲ到達先トシ又
ハ中立國港ヲ戰時禁制品ノ到達地ト爲リテ其實際ノ目的ハ單ニ其諸港ニ寄港
スルニ在リテ同港ヨリ時機ヲ窺ヒ犯則行爲ヲ爲シントスルセノナルトキハ對
敵國軍艦ハ其船舶カ原出發港ヲ出フルヤ否ヤ連續航海ノ法則ニ依リ拿捕沒收
シ得ヘキモノトス而シテ米國ニ於テハ連續航海ノ法則ヲ適用スルニ當リ千八
百六十一年南北戰爭ニ於テ他國ヨリ一層嚴酷ガル方針ヲ採リ中立國商船カ戰
時禁制品ヲ搭載シテ中立國港ニ至ル場合ニ於テモ同港ヨリ他ノ船舶ニ轉載セ
テ敵國ニ運搬スルノ目的ナルトキハ其物品ニ關シテ之ヲ連續航海トシ當初其
出發港ヨリスル航海中ニ於テモ之ヲ捕獲シタル實例少カラス

十三章 戰時 第一款 戰時 禁制品ノ種類

戰時禁制品各種類ニ付テハ學說並ニ諸國ノ實例中一定セサル所アリト雖モ之
ヲ識別スルニ付キ「ブロジエース」ノ分類ハ其標準トシテ有力ナルコト疑カタ

氏ハ凡テ物品ヲ三種トシ第一種ハ兵器彈藥ノ如キ其性質上普通ニ且主トシテ
戰闘ノ用ニ直接ニ使用セラルルモノ第二種ハ書籍美術品ノ如キ普通ニ且主ト
シテ平和的ニ使用セラルルモノ第三種ハ糧食其他ノ如キ戰闘用並ニ平和的共
ニ使用セラルル物品トセリ就中第一種ハ固ヨリ戰時禁制品ニシテ第二種ハ決
シテ戰時禁制品ニ非サルコトハ今日ト雖モ一般ニ異論ナキ所ナリ隨テ戰時禁
制品ニ付キ諸國ノ實例ニ於テ一致セサル所ハ主トシテ第三種ニ在リテ兵器、彈
藥、軍艦等ハ戰時禁制品ナレトモ航海用ノ器具ハ第一種ニ屬スヘキヤ否ヤ又馬
匹ハ第一種ニ屬スヘキモノナリヤ將タ第三種ニ屬スヘキモノナリヤニ付キ各
國ハ自國ノ政略ニ依ルノミナラス時トシテハ其當時ノ利益ニ基キ見解分岐ニ
シ一般ニ云ハバ戰時禁制品ニ關シ英國主義ニ於テハ絕對的ノ戰時禁制品ト條
件附戰時禁制品ヲ區別シ或種類ノ物品ハ其性質上戰時禁制品ト爲スコト疑カ
シトシ其種類ニハ兵器彈藥ノミナラス航海用具及ヒ馬匹ヲモ之ニ包含シ又或
種類ノ物品ハ其使用如何ニ依リテ之ヲ戰時禁制品ト看所ヘキヤ否ヤア決スヘ
キモノトシ斯ル物品ニ付テハ其物品ノミヲ見テ之ヲ決スヘカラスシテ其物品

ノ到達先、其產出地若クハ到達地ニ於ケル敵人ノ需用如何ヲ考量シ又其物品ハ原料ナリヤ將タ製造品ナリヤ等ノ事情ヲ總合シテ之ヲ審査シタル上戰時禁制品ナリヤ否ヤヲ決定スヘキモノトセリ之ニ反シテ大陸主義ニ於テハ兵器、彈薬、軍艦ノ如キ戰爭用ニ使用スルモノ若クハ爆發物ノ原料ノミ其性質上之ヲ戰時禁制品トシ條件附禁制品ノ主義ハ之ヲ排斥スルカ若クハ之ヲ認ムルニ於テモ最モ狹隘ナル範圍ニ限定スルコトトシ「アーレトラン」如キハ糧食其他日常生活ニ缺クヘカラナル物品ハ決シテ戰時禁制品タルコト能ハナルモノトセリ之ヲ要スルニ一般ニ云ハバ英國主義ハ戰時禁制品ノ種類ヲ多クシテ捕獲ヲ嚴ニシ大陸主義ハ其數ヲ減シテ疑ハシキ場合ハ之ヲ寛大ニ處分スヘシトスルニ在リ』英國主義ニ反對ノ主タル理由ハ第一、戰時禁制品ノ範圍ヲ釐定スルコト能ハズ第二、條件附戰時禁制品ノ如キハ其戰時禁制品トシテ沒收セラルト否トヲ決スルニ付キ其積荷ノ當時ニ於テ荷主カ事實上若クハ推定上豫定シ得キ事情ニ依ラス却テ公海ニ於テ拿捕ヲ行フ當時ノ事情ニ依リ沒收ト否トヲ決スル不公平ヲ生シ英國法廷ニ於テ其沒收ト否トヲ決スヘキ戰爭進行ノ事情ハ荷主ノ

聞知シ能ハナルニ拘ハラス其自ラ知得セヌ又交戦者ハ亘ニ之ヲ祕スルカ故ニ知得シ能ハナル事情如何ニ依リテ其財產ヲ沒收セラルルハ不當トスルニ在リ之ニ對シテ英國主義ニ於テハ第一、科學的進歩ト共ニ兵器及ヒ戰闘用具ノ種類ハ時々變更ヲ生シ永久ニ亘リテ一定シ得ヘキモノニ非ス凡テ戰時禁制品ト爲スト否トノ標準ハ戰闘ノ用具トシテ使用セラルルニ在ルコトハ終始變更スルコトナシト雖モ其適用ハ戰爭ノ進歩ト共ニ差異ヲ生スヘキモノトス第二、其物品ノ戰闘ニ有害ナルヤ否ヤハ單ニ其當時ニ於ケル特別ノ事情如何ニ依リテ決セラルヘク石炭ノ如キモ其實質運搬カ時トシテハ戰爭ノ進行ニ何等ノ影響ナキニ拘ハラス事情ニ依リテハ敵軍ニ採リ普通ノ兵器ヨリモ一層有用ニシテ其供給ハ自國ニ採リテ甚シキ有害ナルコトアルカ故ニ斯ル事情ノ下ニ於テハ戰時禁制品ニ關スル原則ノ性質上之ヲ捕獲スヘキコト疑ナシト約此議論ハ容易ニ其曲直ヲ定ムル能ハス隨テ古來諸國ハ戰時禁制品ノ種類ヲ條約ヲ以テ約定シタルモノ多シト雖モ其規定ハ國家ニ依リテ之ヲ異ニスルノミナラス同一國ト雖モ馬匹若クハ航海用具等ニ付テハ一時ハ之ヲ戰時禁制品ト約定シカカ

ラ之ニ前後シテ戰時禁制品ニ非ストシ又甲國ト大條約ニ於テム戰時禁制品ト
約定スルト同時ニ乙國ト大條約ニ於テハ然ラストシタル如キ時ト場合ニ候リ
テ之ヲ異ニシ諸國ノ條約ヲ通シテ其規定ノ一定シタル所ナク隨テ此點ニ付キ
國際公法上ノ法則又ハ慣例ト看ルヘキモノナシ然レバモ「アロシニス」ノ分類
中第一種ハ戰時禁制品ナルコト疑ナク之ニ兵器軍艦砲等其一部並ニ彈丸彈
藥及ヒ其原料ヲモ包含シ第二種ハ固ヨリ禁制品ニ非スシテ第三種ハ之ヲ戰闘
使用ノ爲メ運搬スル場合若クハ其運搬カ事實上戰争ノ使用ト爲ルヘキヤ否ヤ
ニ依リテ之ヲ決スヘク馬匹石炭航海用ノ器具及ヒ糧食衣服貨幣ノ如キハ第三
種ニ屬シスル物品ノ運搬ハ軍用ニ供セラルルトキハ捕獲セラルヘク日清戰爭
ニ際シ我國ノ捕獲規定ニ於テモ之ト同一主義ヲ採レラム

第三款 戰時禁制品ノ制裁

戰時禁制品ニ關スル犯則ノ制裁ハ其物品ノ沒收ヲ以テ原則不シ其船舶所有者
カ戰時禁制品ノ所有者ト同一人ナルトキ又ハ其物品ノ運搬並付キ船舶カ記錄

ヲ爲リ若クハ其物品ヲ庇護スル爲メ詐偽アリタルトキ又ハ船舶ニシテ其物品
ノ搜查ニ反抗シタル如キ場合ノ外ハ船舶自體ノ沒收セラルコトナシ此故ニ
若シ其物品所有者カ船舶一部ノ所有者カルトキハ其部分ヲ沒收セラレ之ニ對
スル代價ノ支拂フ強制セラルヘク又同船内ニ在ル他ノ物品カ禁制品所有者ニ
屬スルトキハ其物品ヲモ沒收セラルハ前述ノ如シ加之中世以來強買ト稱シ
テ交戦者カ其入用ノ物品ヲ中立國船舶内ミシテ相當人代價ヲ以テ強制的ニ
買入ルノノ慣例アレトモ凡テ強買ハ之ヲ買收セントスル物品ノ性質上果シテ
戰時禁制品トシテ捕獲スヘキヤ否ヤ疑ハシキ場合若クハ國家間ニ其見解ヲ異
ニスル場合ニ於テ適用セラルコトアリテ斯ル場合ニハ其強買ハ決シテ批難
スヘキ所ナシト雖モ然ラサル場合ニ於テク近世人學者ハ一般ニ強買ハ交戦者
ノ權利ト看做サシテ交戦者カ何等ノ犯則ナキ中立國船舶ノ航海並ニ通商ヲ
妨害シ其意ニ反シテ搭載品ヲ強制的ニ買收スル也中立國ノ權利ヲ侵害スルモ
ノナリトセリ

第五節 非中立ノ業務

中立國人民カ其船舶ヲ交戦者ノ使用ニ供シ其戰闘ノ進行ヲ援助スルトキハ之ヲ非中立ノ業務ト稱シテ其船舶ハ他ノ一方ナル交戦者ノ爲メ捕獲セラルヘキモノトス船舶ヲ斯ル使用ニ供スルハ第一、交戦國ノ陸軍若クハ海軍ノ信號又ハ信書ヲ運搬スルコト第二、交戦國ノ戰爭ニ使用スル人員特ニ陸海軍ノ軍人ヲ運搬スルコト等ニシテ此等ノ用ニ船舶ヲ供スルハ中立國人民ノ正當ニ行ヒ得ヘキ普通ノ商業ニ非シテ総合制限的且一時的ト雖モ交戦國ノ軍事上ニ干與スルモノトス而シテ一定ノ使用ニシテ中立違反ノモノナリヤ否ヤヲ區別スルニハ其使用契約ノ性質並ニ船長ノ之ヲ知了シ居ルヤ否ヤ果シテ其船舶ヲ交戦國政府ノ爲メニスル戰爭上ノ使用ニ供シタルヤ否ヤニ依リテ決スヘン然レトモ郵船ニ於テ中立國ト交戦國トノ間ニ外交官又ハ領事官又ハ軍人ヲ單ニ普通船客トシテ運搬シ若クハ其國家間ニ於ケル公文書ヲ運搬スルハ中立違反ニ非ス何トナレハ斯ル船客又ハ文書ノ運搬ハ必スシヨ戰闘ノ進行ヲ援助スルノ行爲

ニ非スシテ中立國ト交戦國トノ國際ヲ維持スルニ必要ナルヲ以テナリ加之近世ニ於テハ凡テ郵便物ハ政府ノ書類ト雖モ船長ニ於テ其内容ヲ知ルモノニ非ス又條約ヲ以テ敵國間ニ於テモ其運搬大自由ト爲スモ人アルニ至リタルカ故ニ交戦國軍艦カ郵船ヲ應接検査スルニ於テモ斯所書類ノ檢閲ヲ爲スヘカラズルモノトス之ヲ要スルニ中立國ノ船舶ニシテ捕獲沒收セラルヘキ非中立ノ業務トハ交戦國ノ費用ニテ其使用ノ爲メ商船ヲ雇入レ若クハ其船舶カ自ラ交戦國政府ノ爲ス其軍隊、兵士ノ運搬ニ從事シ其他同政府ノ爲メ戰爭本有用カル業務ニ從事スルヲ意味スルモノトス。以前ノ事例ノ如キ者也。不拘非中立ノ業務ニ關スル法則遠反ノ制裁ハ其航海ヲ不法トスルカ故ニ其船舶ノ到達地如何ニ拘ハラス。同船舶ヲ沒收シ其積荷ノ所有者カ船舶所有者ト同一人ナルトキ又ハ船舶ニ於テ詐欺若クハ隠匿ヲ爲シタル場合ニ限り其物品ヲ無沒收スベモノトス。一千八百六十一月七日英國郵船トレント號「ババ」港ヨリ「チッパー」港ニ至ル航海中南軍政府ヨリ英佛兩國ニ派遣セル使節兩名及ヒ其書記官一名宛フ船客トシテ搭載シ居タルニ公海ニ於テ北軍軍艦ラン・シャシント

エ彼リ巡査セラレ同艦ハ其兩使節及ヒ書記官ヲ俘虜ト取リ米國ガ「ストン」脅ニ
捕ヘ來リテ以テ英米兩國ノ紛議ヲ生ヌ英國政府ニ「メイント」號不到達先着
「アゾト」港ニシテ中立國ナルカ伏ニ兩使節及ヒ書記官ノ搭載ヲ戰時禁制品ニ非
ストン米國政府ハ直チニ其解説ヲ爲スキシトテ要請を爭議ノ未遂且米國政
府ハ四名ノ俘虜ハ海上ニ於外ル臨検査權有遂行上正當捕獲ナシモ國ナメ
ト主張シカカラ軍艦カ「國」之ト號内ニ敵國の使節ヲ發見シタル並當リ同號ヲ
米國捕獲審査所ニ引致セシマ單ニ使節ノミヲ俘虜トシテ取去リタルヲ不法
トシ右四名ヲ「トレスト」號ノ到達地ガ東シ升ツト港ニ送致ノ爲テ英國軍艦ニ引
渡セリ然レニ此問題ハ元來非中立人事業ニ關スル法則ノ違反ナリ可否
問題ニシテ英米兩國政府ノ爭論シ然ル如キ戰時禁制品ノ問題ニ屬スルキモ
ニ非ス加フルニ前述ノ理由ニ依テ「トレスト」號ガ南軍ノ使節及船客トシテ運搬
シタルベ非中立ノ業務ニ關スル法則上決シテ不法ニ非ナルホト疑ナシバニ
道ニ付ケル事由更に追加ニ書記官等が誰見ニ被ス其内容を威々タニ申
國際公法(中立) 終

國際公法(局外中立)

結論

第一章 局外中立ノ意義

法學士 秋山雅之介 講述

(三十五年度講義錄)

國際公法(中立)

国際公法(中立) 国際公法(中立)

和佛法律學校發行

第一回 中立國人民ノ行爲ニ關スル權利義務 非中立ノ義務

第二回 中立國人民ノ行爲ニ關スル權利義務 非中立ノ義務

第三回 中立國人民ノ行爲ニ關スル權利義務 非中立ノ義務

第四回 中立國人民ノ行爲ニ關スル權利義務 非中立ノ義務

第五回 中立國人民ノ行爲ニ關スル權利義務 非中立ノ義務

第六回 中立國人民ノ行爲ニ關スル權利義務 非中立ノ義務

第七回 中立國人民ノ行爲ニ關スル權利義務 非中立ノ義務

第八回 中立國人民ノ行爲ニ關スル權利義務 非中立ノ義務

第九回 中立國人民ノ行爲ニ關スル權利義務 非中立ノ義務

第十回 中立國人民ノ行爲ニ關スル權利義務 非中立ノ義務

第十五回 中立國人民ノ行爲ニ關スル權利義務 非中立ノ義務

第十一回 中立國人民ノ行爲ニ關スル權利義務 非中立ノ義務

第十二回 中立國人民ノ行爲ニ關スル權利義務 非中立ノ義務

第十三回 中立國人民ノ行爲ニ關スル權利義務 非中立ノ義務

第十四回 中立國人民ノ行爲ニ關スル權利義務 非中立ノ義務

第五回 中立國人民ノ行爲ニ關スル權利義務 非中立ノ義務

第十六回 中立國人民ノ行爲ニ關スル權利義務 非中立ノ義務

第十七回 中立國人民ノ行爲ニ關スル權利義務 非中立ノ義務

第十八回 中立國人民ノ行爲ニ關スル權利義務 非中立ノ義務

第十九回 中立國人民ノ行爲ニ關スル權利義務 非中立ノ義務

第二十回 中立國人民ノ行爲ニ關スル權利義務 非中立ノ義務

第二十一回 中立國人民ノ行爲ニ關スル權利義務 非中立ノ義務

第二十二回 中立國人民ノ行爲ニ關スル權利義務 非中立ノ義務

第二十三回 中立國人民ノ行爲ニ關スル權利義務 非中立ノ義務

第二十四回 中立國人民ノ行爲ニ關スル權利義務 非中立ノ義務

第二十五回 中立國人民ノ行爲ニ關スル權利義務 非中立ノ義務

第二十六回 中立國人民ノ行爲ニ關スル權利義務 非中立ノ義務

第二十七回 中立國人民ノ行爲ニ關スル權利義務 非中立ノ義務

第二十八回 中立國人民ノ行爲ニ關スル權利義務 非中立ノ義務

第二十九回 中立國人民ノ行爲ニ關スル權利義務 非中立ノ義務

國際公法(局外中立)目次

國際公法(局外中立)目次

總論	一
第一章 局外中立ノ意義	二
第二章 局外中立ノ性質	八
本論	九
第一章 局外中立國ノ國家行為ニ關スル權利	四六
第二節 種類	四七
第一節 總則	四八
第二節 中立國ニ對スル交戰國ノ義務	一七
第一款 中立國版圖ノ不可侵	一八
第二款 局外中立國ニ於ケル中立ノ法規	一八
第三款 中立國ノ權利侵害	二一
第三節 交戰國ニ對スル中立國の義務	二一
國際公法(局外中立)	三〇

國際公法(局外中立)目次

二

第一款 戰時禁制品
第二款 戰時禁制品ノ性質
第三款 戰時禁制品ノ種類
第四款 戰時禁制品ノ制裁
第五節 非中立ノ業務

一 中立國人民ノ義務不履行ヨリ生ヌル直接損害
二 中立國ノ義務不履行ヨリ生ヌル間接損害
三 中立國ノ義務不履行ヨリ生ヌル間接損害
四 中立國ノ義務不履行ヨリ生ヌル間接損害

第一章 中立國人民ノ行爲ニ關スル權利義務
第二章 中立國人民ノ行爲ニ關スル權利義務

第一節 總則
第二節 中立國人民ノ普通商業
第三節 封鎖
第四節 封鎖ノ性質
第五節 封鎖ノ效力

一 本篇
二 第一款 海上捕獲
三 第二款 同艦船搜查
四 第三款 封鎖
五 第一款 封鎖ノ性質
六 第二款 封鎖ノ效力
七 公司(第三款 封鎖ニ關スル制裁)

第四節 戰時禁制品
第一款 戰時禁制品ノ性質
第二款 戰時禁制品ノ種類
第三款 戰時禁制品ノ制裁
第五節 非中立ノ業務

六二
六三
六六
七〇
七二

總則
第一款 戰時禁制品ノ性質
第二款 戰時禁制品ノ種類
第三款 戰時禁制品ノ制裁
第四款 戰時禁制品ノ制裁
第五節 非中立ノ業務
第六節 封鎖
第七節 封鎖ノ性質
第八節 封鎖ノ效力
第九節 公司(第三款 封鎖ニ關スル制裁)

ハ漸々今ヲ去ル迄ト百餘年前ノ事ナリエス是ヲ以テ經濟學上於スベ未タ何人ト難セ疑フホカラナム眞理ニシテ認ヌタルヲ得ガル一定不動之必然的原理原則ナガモリ多ク存在セヌ隨テ之ニ關ス此學派モ亦數多考判而シテ尤今然即テ經濟學ノ變遷時代ナリ既ニ變遷ノ時代ナリ故ニ今日正確ニシテ疑フヘカラタル理論ナリトシテ一般ニ認メラルモノモ明日が不正確シテ取ル足尾者ナル誤認ノ甚シキ空論トシテ排斥サルルニ至ルヤモ未タ知感ヘカラヌ譽有時ニ當リテ經濟學ノ原理原則ヲ絕對的ニ疑フシカズアルモノ其制テ確定セ説教スルハ極メテ困難ノ事ニ屬スルト同時ニ亦斯道ノ學者先輩カニ奮ヒテ務ムヘキ必要ノ事タリ

又我邦現時ノ狀態ニ於テ經濟學ノ實際上非常ニ必要ナルハ多言ヲ要セナル所ナリ抑モ我國現時ノ經濟界ハ實ニ變化ノ甚シキ時代ニ遭遇セルモノニシテ又實ニ最モ困難ナル境遇ニ在リ特ニ日清戰役ノ後ニ至リ諸種ノ事業勃然トシテ興起シシ之カ爲メ資金ノ供給ニ缺乏ヲ告クルニ至レリ而シテ此等ノ事業ハ果シテ營悉ク有益確實ノ事業ナルヤ否ヤ他語以テ之ヲ言ヘハ資金ハ皆悉ク有益確

實ナル事業ニ投セラレ終リタルカ爲メ遂ニ不足ヲ訴フルニ至レルモノナルヤ否ヤ是レ頗ル決シ難キ又問題ナリ蓋シ顧フヨリ一時勃興セル多クノ事業中ニ在リテハ投機的ノ事業ニ亦比較的頗ル多數ヲ占ヌタルモノゾ如シ而シテ此等ノ投機的事業ヲ除キ他ノ種類ノ事業ニ對シテモ仍ホ資金不足居ルヤ是レ實ニ須ラク攻究一番要スル事史ナリ近時外資輸入は漸漸ク世間ノ問題下爲シリト雖モ是レ今日ノ實際ニ於テ頗ル困難ノ事ナリ抑モ外資輸入ノ事タル必シモ可ナラナルニ非ス場合ニ依リテハ大ニ可ナリ然レモ一二年以來外資輸入說ノ大ニ勢力ヲ得ルミ至レル所以ノ本邦近時ノ經濟事情ハ虛心半棄ニ之ヲ完メサルヘカラス惟フニ本邦ノ近時ハ金融逼迫ノ時代ナリ而シテ金融逼迫ハ必スシモ資本ノ不足ノミニ因ルニ非ス資本ノ實際豐富ナル場合ニモ亦金融逼迫ノ現象往往存在スルコトナラニ忘ルヘカラス金融ノ逼迫ハ國內ニ實際存在スレトモ貯藏セラレ居ルカ爲メ資本カ資本トシテ世上ニ出テナルニ因ルコトアリ是レ畢竟國民ノ貯蓄ニ對スル觀念ノ誤レルト金融機關ノ不整頓ナルトヨリシテ起ル結果ナリ此等ノ實地問題ヲ解釋スルニハ經濟學ノ思想ヲ要スルコ

ト勿論ナリ是レ我邦今日ノ實際上斯學研究ノ必要才所以ノ一ナリ
金融社會ニ關スル重要問題ヘ先づ前述タル所ニ止メ備ニ次モ工業ニ關スル特
別問題ハ如何惟ヌニ最近七八年以來ニ於ケル工業社會ノ進歩モ伴ヒ今ヤ既テ
工業主ト勞働者トノ間ニ一大衝突ヲ惹起セントソシテ形勢トテ爲リ殊ニ近
來大工場ニ於テ屢々之ヲ見ル是ニ於テカ職工保護問題起リ工業條例ノ制定必要
ナルヲ説ク者アルニ至レリ嘗テ聞キシ所ニ據レバ此種ノ條例ヘ第十三議會ニ
工場法案トシテ提出セラルトヨトカリシカ如何ナル都合ニ事業ニ茲ヤ
至ラサリキ然レトモ之ヲ要スルニ工場ニ關スル問題ノ多少世人ノ注目ヲ惹ク
ニ至リシハ確ニ最近ノ著明ナル事實力莫而シテ職工保護ノ今日ニ必要ナルハ
誠ニ疑フヘカラナガ事ナレトモ其保護之程度ハ如何無考ヲ定ムヘキカ若ビ此
種ノ社會政策的立法ノ第一著手ニ制定ナルル法令ニシテ不完全甚シカラシカ
後日ニ至リテ之ヲ改良スルヨリ決シテ易シトセス故ニ將ニ始メテ制定セント
スルノ今日ニ於テ豫メ大ニ之ヲ攻究シ以テ出來ド完全大モシニア説クナナル
ハカラス

次ニ財政上ノ問題ハ如何抑モ今日ノ財政問題ハ何ソヤ曰ク是レ戰後ノ經營ニ
必要ナル財政ヲ如何ニ處置スヘキヤノ問題是ナリ二十七八年戰役後ノ經營事
業トシテ起レルモノ頗る多シ其中ニ就キ軍備擴張ノ一事ハ萬衆ノ口ニセラレ
タル所ナリ然レトモ單ニ軍備ノ擴張スルノミヲ以テ萬全ナル國家ノ經營策ト
爲スヘカラサルハ勿論ナリ農工商ノ業務モ教育ノ事モ亦共ニ之ヲ擴張スルヲ
要ス然ルニ此等ノ種類ニ屬スル経費殊ニ教育費ハ極メテ不充分ナリ試ニ世界
各國ノ財政ニ關スル統計ヲ見ヨ歐米ノ強大國ハ論スルマテモ大ヒ稍ヤ中等ニ
位スル國否頗ル小ナル國ニ於テモ尙ホ其教育費ニ我邦ヲ凌駕スルモノノ跡カ
ラス四千餘萬ノ人口ト二萬七千六十二方里餘ノ面積トヲ有スル我大日本ニ此
點ニ於テ果シテ他色大キヲ得ベキヤ學術ノ進歩農工商ノ發達頗ル遲延タルニ
誠ニ故ナキニ非サルナリ現ニ歐米諸國ニ於テハ左程ノ新發明ニ非才ル事モ我
邦ニ於テハ大發明トシテ貿易セラレ發明者モ亦得得然タクタク如象ハ以テ諸般
ノ事皆頗ル幼稚ナルア幕スルニ足レリト爲スヘシ噫嗚呼我大日本國也

又交通機關ノ如キモ時ニ京濱開ノ電信ニ三時間を要スルコトアガタ如キハ往

往吾人ノ耳朶ニ接スル所ナリ是レ畢竟經費不充分ノ結果ナラズドセシヤ之ヲ
要スルニ今日ノ狀態ハ有ラユル事業カ經費ノ不足ヲ感シツアアルノ時ナリ是
レ果シテ軍備擴張ノ結果ナルカ又果シテ軍備擴張既ニ國力ニ堪ヘヌト莫ル
カ茲シ他ノ事業ニ比較シテ聊カ多額ナリト謂フニ過キタルヘシ而シテ今日社
會全般ノ事業ニ對シテニ時ニ消極的政策ヲ採ラシトスルモ到底不能ノ事ニ屬
ス何トナレハ中途ニシテ當初ノ方針ヲ改ムルトキハ恰モ一旦植付ケタル苗ヲ
中途ニ植換フルト同ジク既ニ費シタル勞力資本ヲハ遂ニ空無ニ歸セシメタル
ヘカラス況ヤ其成果ノ見ルヘカラサル論ナキニ於テヲヤ一言ニシテ之ヲ盡セ
ハ今日ノ歲入ヲ以テ擴張ヲ要スル總テノ事業ヲ經營セントスルハ到底不能ノ
業ナリ一日モ早ク他ニ確實ナル財源ヲ發見セナルベカラズ而シテ今日之方救
濟策ヲ論スル者一ニシテ足ラスト雖モ要スルニ一ハ即チ歲入ヲ増加セントセ
ハ地租ノ如キ直接稅ヲ增加スルモ若ガストスルモノニシテ他ノ一ハ即チ主ト
シテ砂糖稅及ビ酒稅等ノ如キ財政學上ニ於テ消費稅下稍スルモノヲ以テセシ
トスルモノトノ議論ニ外ナラス此種ノ問題タル決シテ一朝一夕ニ其利害得失

ヲ決スヘキモノニ非ス政究之上ニモ更ニ政究ヲ要スヘキ一大問題タリ抑モ酒
稅及ヒ砂糖稅等ノ如キハ之ヲ如何ニ増加スルモ一見決シテ不都合ナキカ如シ
ト雖モ是レ皮相ノ見タルノミ精密ニ政究スルトキハ彼ノ下等社會ノ終日勞働
ニ從事スル者ニ在リラム一杯ノ晚酌ヲ以テ終日ノ勞ヲ慰スルモジナシハ此社
會ニ在リテハ一定ノ分量ヲ超エサル以上ハ酒ノ往往必要ナルコト誠ニ吾人想
像ノ外ニ在リ斯ル次第ナシニ課稅ノ高キニ過タルモ低キニ失スル先共ニ害ア
リ要ハ唯其稅率如何ニ在ルノミ殊ニ酒稅ヲ如キニ在リテハ課稅高矣失スレ
ハ自然酒質ヲ惡シタスルノ弊アリ即チ酒ニ亞羅爾保兒ヲ混和スル者アルニ至
ルヘシ亞兒爾保爾ハ最モ恐ルヘキ害毒ヲ含ムモニオビテ飲酒家ハ爲ニニ健康
ヲ害シ國民衛生、公衆衛生上ニ至大ノ害ヲ興フル既テ又砂糖稅ニ付テモ
右ト同様ノ弊ナキニ非ス即チ砂糖ノ如キハ社會ノ進歩ニ伴隨シ國民ノ嗜好
スルモノナレ不一旦砂糖ノ甘味夢覺ニタル者ニ向ヒテ之ヲ廢セシムルハ策メ
得タルモソニ非ス况ヤ課稅高キニ失スルトキハ是實力比較的低下等ノ廉價物
ヲ食スルコトヲ得タル者カ述吾是ヨリ一層高價ナル他若貨物ヲ消費スルニ至

影響ヲ與フルモナリシ消費税ヲ増加スルハ國家百年又長計タクヘント雖モ一時ニ之ヲ増加スルトキア一般ノ秩序ヲ傷フテキア以テ却テ結果ヲ成ヌニ至ルハシ是レ經濟學上ヨリ大ニ論究セタルベカラシル皆大問題ナリ。曾幾度茲ニ注意スヘキハ政治問題ト經濟財政ノ問題トヲ混同ヲ避ケヘキコト是ナリ。地租增加問題ノ如キニ在リテハ代議士カ自家ノ選舉區民ノ歡心ヲ買ハシカ爲メニ其良心ヲ枉ケテ增稅說ニ反對シ財政經濟ノ問題トヲ混同スルモノ妙シトキモ豈然セナルヘクシヤ又一方ニハ地租增加ハ幾日ノ豫備ニセントスガモノアリ是レ財政學上大ニ論究スヘキ好問題タリ而シテ財政學ハ經濟學ノ範圍内ニ在リト以故ニ經濟學者ハ其處に於ける者多々有る者無也。又經濟學ハ法律學ト關係スル所極多ク兩兩相待チテ完キト得ルモノノアリ即チ法典ノ制定ハ經濟學ニ非常ナム影響ヲ及ボニモナリ。蓋世間ニ於て經濟學ニハ總論、純正經濟學、應用經濟學、別アリ而シテ總論ハ學者ニ依リ往往其意義ヲ異ニス即チ或者ハ茲ニ謂フ所ノ經濟學總論ヲ以テ純正經濟學上解ス

報道員は本報員又は編輯者等に於て、書面にて該軍大司教源
義教の死を記載する。

卒業證書授與式七月十六日午後二時三十分ヨリ本校内ニ於テ第十八回
講師、校友、新聞記者等著席シ丁度本校專任理事梅博士ハ進ミテ兩陛下御影
ノ覆絹ヲ奉ケラレ一同最敬禮ヲ行フ次テ校長富井博士式禮ニ立ナフ卒業證書
授與式ヲ行フ旨ヲ告ク證書並ニ賞品ノ授與ヲ了リ學事ノ報告ヲ爲スヘントテ
先づ來賓ニ對シ雨天ニモ拘ヘラス實臨ヲ辱ウセシヲ謝シ進ミテ本校カ創立
極メト古キニ拘ヘラス卒業生ノ少數ナルハ元來本校ノ方針シテ頭數ニ重複
ヲ置カズ専ラ有用ナム人才ヲ養成セシコトヲ期スルノ結果ニ外ナラタル旨
述ヘ尙ホ本校ノ倍盛大ニ趣キタル次第ニ説キ及至終ニ卒業生ニ對メ祝詞並乎
今後ノ處世上人ニ關シ諭諒戒アリヘラレ次ニ寺尾博士ハ講師總代ト名
卒業生ニ對スル祝詞ヲ述ヘ且諸君ハ本校ヲ卒業セラタカル所ニ至ラハ未矣法
學ノ初步ヲ學ヒ得タ此ニ止マサ社會上人地位未然幼少ノ時代ニ在ルカト無事

各、其地方ニ退キテ公共ノ事業ニ任シ、士般人民ヲ誘導指導セラレバトヲ希望スル旨ヲ述ヘ尙ホ德義ノ重ヌ爲旨不論ナリ。次ニ校友總代横山寛平氏ハ先づ來賓ニ對スル挨拶卒業生ニ對スル祝詞ヲ述ヘ校友間互ニ親睦又厚シ倍、本校ノ隆盛ヲ贊助セサグヘカラサル旨ヲ說カズ。次ニ來賓總代加藤高明氏ハ先づ卒業生ニ對シ其榮譽ヲ祝シ當校ノ取ラル方針即チ頭數ノ多キヲ盛マスシオ有用ノ人才ヲ得ントスルコトノ極メテ善美ナムヲ贊シ且處世上ノ注意甚シヲ第一、自己ノ業務ヲ重スヘキヨト第二、堅忍不拔ノ精神ヲ以テ事ニ當リ萬一之僥倖ヲ冀フヘカラサル旨ヲ述ヘ日英兩國ニ於ケル處世上ノ異同ヲ說キ我邦ニ於テハ如何ニ世ニ處スヘキカニ及ヒ尙ホ進ミテ諸君次法適用ノ職ニ當ラ。常識ヲ尚ヒ社會ノ事情ヲ斟酌シテ穩當ナル解釋ヲ採ラルト同時ニ品行ヲ慎ミ誠嚴ヲ保チテ法律ノ尊嚴ヲ汚ナラシコトヲ力シ熱心忠實ナラサル本カラスト。說カレ最後ニ卒業生總代伊藤哲英氏ハ答詞ヲ述ヘラレ等ヲ式ヲ有リ庭内ニテ一同撮影シ別席ニ於テ麥酒等ノ饗應アリタリ尙ホ來賓ニハ芹澤政溫、土方博士、野崎啓造、長谷川喬加藤高明等ノ諸氏、本校役員及ヒ講師ニハ寺内陸軍大臣、辻新

次三好退廩、名村泰藏等ノ諸氏及ヒ宮井、梅、穂積、寺尾岡野、高木、松波、山田等ノ博士、古賀、掛下、前田、水町若柳、秋山、中山、柿原、遠藤、岩野、岩田、志田、吾孫子、清水等ノ學士、校友ニハ横山佐々木、矢野角原、山本等ノ諸氏無慮數十名席席セラレタリ。

○擔任講師ノ變更　經濟學總論擔任講師久保無二、雄氏ハ差支ノ爲メ辭任セラレ法學博士金井延氏同學科ヲ擔當セラルコトト爲リタルニ由リ本號以後逐次同博士ノ講義ヲ掲載スヘシ。

○自首ノ效力ノ及ブ範圍　自首ノ效力ハ犯人カ申立テタル犯罪ノミニ止マルカ將タ其犯人カ申立テタル犯罪以外ニ罪ヲ犯シテ未タ發覺セナルモノアルトキハ其罪ニセ自首ノ效力ヲ及ボスヘキカ今刑法ノ規定ヲ見ルニ。事未タ發覺セナル云云、下アリ隨フ下ノ如キ大審院ノ說明ハ相當ナルヘシ曰ク凡ン被告ニ數箇ノ犯罪行為アリタル場合ニ在テ、被告ノ自首減刑ハ各罪ニ付キ別別ニ之レヲ定ムルコトヲ要スルヲ以テ被告カ總テノ犯罪ニ付キ減刑ノ利益ヲ主張スルニハ總テノ犯罪ニ付キ自首ヲ爲シタルゴトナ必要回渉被告訴單ニ其中ノ一日罪ノミニ付キ自首ヲ爲シタルトキハ其罪ニ付キ減刑ヲ爲スヘキハ勿論ナルモ減刑ノ恩典ハ單ニ其一罪ニ止マリ之レヲ被告ノ自首セザル懶サ犯罪

及本スコトヲ得素ル事ノ由ト大審院造行三十五年明治三十九年十一月十日審決官

二刑事ニ自首せ實等處ナリテ其罪ニ對于大過失也

○第一年級學年試驗問題題

以後ノ分左ノ如シ要事ニ思ひ難當に難事也

國際公法平時合(中村博士著)自首説明へ答應ニ付チ限界ニ付

一甲乙兩國丙國ヲ分割スノ締約ヲ締結ハ有ナリヤ

二永久局外立國ノ性質及權利義務ヲ定義スヘシ

國際公法(注中立)秋山學士著

三法規ハ現行法ナリ否ヤナ既而來シヤニ異ニ未だ發達セラ

四封號或戰時制限ノ如則ニ關ス制限ノ差異如何

五在問中一問問二答案ナ附ス

六民法物權(自第6章)へ(中山學士著)

一物權之意思及客觀性(註明セラ)學林著

二所有權占有的ノ區別(註明セラ)地上權水小作權地役權ノ區別(註明セラ)

三共有權ノ性質ナ説明スヘシ

四入會權(註明セラ)海商法(註明セラ)山本學士著

五甲斐源岸ノ金剛石ヲ販賣シテ持歸レリアリ此金剛石ヲ裝飾シテ一箇ノ金剛指環を作セリ丙アリ此指環ナ

盗取リ之チニ賣レリ(ハ曾無ナリ丁死)ソラ虎耳石(註明セラ)甲斐金剛石ヲ販賣シテ一箇ノ金剛指環を作セリ丙アリ此指環ナ

セリ謂フ島崎二何人カ主張ス所有者ナムヨ富我澤源喜(註明セラ)山田琴(註明セラ)吉郎

以上六問中二問ナ選ミ答案ナ出スヘシ

法學志林

毎月一回十五日發行○定價一冊金十錢郵稅一錢
校及生徒、校外生ニ限り特價一冊金八錢郵稅一錢

第三十三號 七月十五日發行

志林(シラバニンデスラート記事件ニ及フ)法學士秋山雅之介
纂論(シラバニンデスラート論)法學博士富谷鉢太謙次郎實吉
解疑(シラバニンデスラート論)法學博士岡梅海山獵友夫
劇場法(シラバニンデスラート論)法學博士豊島直恭通治

○支拂擔當者ト振出人、引受人トノ關係法學士志田友夫
○商法第四百四條ニ依ル不當利得ノ法學博士富谷鉢太
○返還請求ト舉證ノ責任法學博士井政
○不動產賃權ノ實行期法學士豊島直恭
○受命判事ト司法警察官トノ権限上ノ關係法學士松本
○買入證券ノ效力法學士吉郎

例(○大審院新判決例二十六件)法學士松本
事(數件)法學士吉郎

記報

事(數件)

發行所

司部省指定

和佛法律學校

明治三十五年七月二十日發行

(定價金貳拾錢)

校外生規則摘要

年ノ三部トス

講義錄ノ掲載科目左ノ如シ

第一學年 法學通論、憲法、民法第一編及々第二編等上章
マツ、刑法總論、國際公法、經濟學
第二學年 岩井第三編、商法第一編、第二編、第三編、第四編、第五編
法、社會、民事訴訟法等
第三學年 法、(第二編等第一編第二編)、刑事訴訟法時、政學
(第三編等第五編)、民事訴訟法第三編以下、商法、財法
法、國際私法

講義錄ハ毎月六回左ノ期日ニ發行ス

第一學年 五日 二十日 第二學年 十日 二十五日

第三學年 十五日 三十日(但三月三限リ末日)

校外生ハ何時ニテモ入學スルコトヲ得
月謝金左ノ如シ

第一學年 第一學年 五十錢
第三學年 全學年 金一圓
月謝ハ郵便爲替、銀行小切手、通運早達便ヲ
以テ東京市麹町區富士見町六丁目十六番地
和佛法律學校會計局宛ニテ送付スヘシ

東京市牛込區東横町十七番地
松田久次郎
發行者

東京市牛込區矢来町三番地
金子活版所
印 論 所

東京市芝區西久保明舟町十一番地
和佛法律學校
(電話番町百七十四番)

東京市麹町區富士見町六丁目十六番地
司法省
發行所 指 定

和佛法律學校
(電話番町百七十四番)

明治二十二年十二月九日内務省許可
明治三十四年十一月四日第三種郵便物認可